

2020 年度
学修要項 (シラバス Syllabus)

ICM 国際メディカル専門学校
鍼灸学科 (夜間部)

鍼灸学科(夜間部)

科目				単位数	総時間数				学年別				実務経験のある教員等による授業科目		
					講義	演習	実技・実習	計	1年	2年	3年	計	2020年度	単位数	
基礎分野	科学的思考の基礎 人間と生活(14)	心理学	2	30			30		30		30				
		マーケティング	2	30			30		30		30				
		英語	2	30			30		30		30				
		中国語	2	30			30	30			30				
		スタディスキルズ	1	15			15	15			15				
		コミュニケーション技法	2	30			30	30			30				
		情報処理Ⅰ	2	30			30	30			30				
		情報処理Ⅱ	1	15			15	15			15				
計			14	210	0	0	210	120	90	0	210		0		
専門基礎分野	人体の構造と機能 (12)	解剖学Ⅰ	3	45			45	45			45				
		解剖学Ⅱ	3	45			45	45			45				
		解剖学Ⅲ	4	60			60	60			60				
		生理学Ⅰ	4	60			60	60			60				
		生理学Ⅱ	4	60			60	60			60				
		解剖生理Ⅰ	3	45			45		45		45				
		解剖生理Ⅱ	3	45			45		45		45				
		運動学	2	30			30		30		30				
	疾病の成り立ちその 予防及び回復の 促進(12)	病理学概論	2	30			30		30		30				
		臨床医学総論	4	60			60		60		60				
		臨床医学各論Ⅰ	3	45			45		45		45				
		臨床医学各論Ⅱ	4	60			60			60	60				
		臨床医学各論Ⅲ	4	60			60			60	60				
		リハビリテーション医学	4	60			60		60		60				
	保健医療福祉と はり及びきゅうの理念(3)	公衆衛生学	2	30			30	30			30				
		経営と法律	2	30			30			30	30				
				医療概論	1	15			15	15			15		
	計			52	780	0	0	780	315	315	150	780		0	
専門分野	基礎はりきゅう学 (9)	経絡経穴概論	6	90			90	90			90	○	6		
		伝統医学概論Ⅰ	4	60			60	60			60	○	4		
		伝統医学概論Ⅱ	2	30			30		30		30	○	2		
	臨床はりきゅう学 (13)	病態生理	1		30		30			30	30	○	1		
		適応と鑑別	2	30			30			30	30	○	2		
		鍼灸理論Ⅰ	1	15			15	15			15	○	1		
		鍼灸理論Ⅱ	3	45			45		45		45	○	3		
		体表観察	1			30	30		30		30	○	1		
		症例検討	1		30		30			30	30	○	1		
		伝統医学臨床論	4	60			60			60	60	○	4		
		文献閲読	1	15			15		15		15	○	1		
	社会はりきゅう学 (2)	鍼灸業界教養	1	15			15	15			15	○	1		
		計	27	360	60	30	450	180	120	150	450		27		
	総合領域(10)	伝統医学史	1	15			15			15	15				
		就職実務	1	15			15		15		15				
		医学補完Ⅰ	2	30			30	30			30				
		医学補完Ⅱ	1	15			15		15		15				
		医学補完Ⅲ	1	15			15			15	15				
		対策授業Ⅰ	4	60			60			60	60				
		対策授業Ⅱ	5	75			75			75	75				
		総合実技	1			30	30			30	30				
		総合医学演習	1		30		30			30	30				
	計			17	225	30	30	285	30	30	225	285		0	
	実技(15)及び臨床 実習(4)	鍼灸実技Ⅰ	5			150	150	150			150	○	5		
		鍼灸実技Ⅱ	5			150	150		150		150	○	5		
		経絡経穴実技Ⅰ	1			30	30	30			30	○	1		
		経絡経穴実技Ⅱ	1			30	30		30		30	○	1		
手技実技Ⅰ		1			30	30	30			30	○	1			
手技実技Ⅱ		1			30	30		30		30	○	1			
美容スポーツ各種鍼灸		2			60	60			60	60	○	2			
現代鍼灸検査実技		1			30	30		30		30	○	1			
伝統鍼灸診察実技		1			30	30		30		30	○	1			
現代鍼灸実技		3			90	90			90	90	○	3			
伝統鍼灸実技		3			90	90			90	90	○	3			
臨床実習前実技		1			30	30		30		30	○	1			
臨床基礎実習Ⅰ		1			45	45	45			45	○	1			
臨床基礎実習Ⅱ		1			45	45		45		45	○	1			
臨床実習		2			90	90			90	90	○	2			
計			29			930	930	255	345	330	930		29		
単位数・時間数合計			139	1,575	90	990	2,655	900	900	855	2,655	27	56		

科目名	心理学		
担当教員	中島 郁子	実務経験の有無及び経歴	
対象学年	2年	開講学期	後期
単位数	講義 2単位	時間数	30時間
科目の概要	1. 面接の意義を理解する 2. 身体症状について臨床心理学的に必要な知識を身につける 3. 面接についての知識を身につける 4. 事例検討について理解する		
科目の目標	臨床心理面接の基礎を学び、患者さんの話の聞き方、見立ての立て方、相談に患者さんを理解するために必要な面接の行い方を身につけることを目標とする。		
学習の到達目標	1. 面接の意義を理解する 2. 身体症状について臨床心理学的に必要な知識を身につける 3. 面接についての知識を身につける 4. 事例検討について理解する		
学習方法・学習上の注意	テキストに沿って、発表形式で授業をすすめる。 各自、担当箇所(初回の授業時に決定)については、特によく予習し準備すること。		
関連科目			
持参物	テキスト、ノート等		
講義計画	講義内容		
1	オリエンテーション		
2	方法としての面接		
3	面接をどう始めるか		
4	「わかる」ということ		
5	身体症状と症例		
6	不登校児童の臨床事例		
7	面接の進め方		
8	「ストーリー」を読む		
9	見立て		
10	家族の問題		
11	劇としての面接		
12	面接とケース・スタディ		
13	子どもの臨床事例		
14	身体症状を訴える女性の臨床事例		
15	試験		
成績評価の方法と基準	評価方法: 期末試験80%、学習意欲(授業態度)10%、出席状況10% 評価基準: 学則に従いA(80点以上)・B(70点以上80点未満)・C(60点以上70点未満)・D(60点未満)とする。		
使用テキスト	・新訂 方法としての面接 臨床家のために 土居健郎著 医学書院		
参考文献			

科目名	マーケティング		
担当教員	須佐 修一	実務経験の有無及び経歴	
対象学年	2年	開講学期	前期
単位数	講義 2単位	時間数	30時間
科目の概要	治療院を開業・運営するために、基礎的な事業計画の作成・市場調査・税務手続き・資金調達・資金運用・法務等々を学ぶ。卒業後すぐに、独立開業を目指し、基礎的な運営術を学ぶ。		
科目の目標	マーケティング・リサーチ、ブランド戦略、価格戦略、ターゲティングなどマーケティングの基本を学び、基礎的な経理用語の習得、個人事業主として事業計画書・開業届を作成し、経理書類を作成することが出来る。		
学習の到達目標	マーケティングの必要性を学習し、ビジネスでマーケティングに取り組むために必要な基礎知識を学び、併せて鍼灸院経営の基礎を学ぶ。		
学習方法・学習上の注意	テキストを中心に、みんなが良く知っている事例をマーケティング視点で学習する。授業の中で、リアルタイムで発表をフィードバックする。		
関連科目			
持参物			
講義計画	講義内容		
1	マーケティングとは何か(事例研究)		
2	マーケティングにおける市場分析		
3	自社を取り巻く環境チェック(自社の分析)		
4	マーケティングの基本戦略(市場の細分化)		
5	" (広告効果を測る)		
6	新製品・新サービスを開発するマーケティング		
7	" (価格設定のテクニック)		
8	いまある商品を売るマーケティング		
9	ブランド戦略のためのマーケティング		
10	" (人を魅了するブランドづくり)		
11	Webマーケティングの基礎知識		
12	マーケティングを学んで(個人・グループ)ディスカッション		
13	鍼灸院の開業知識を身につけよう(諸手続き)		
14	コンセプトを決めよう		
15	事業計画書の作成、関連税務、法規を学ぶ		
成績評価の方法と基準	評価方法: 期末試験60%、授業態度・学習意欲(出席状況を含む)40% 評価基準: 学則に従いA(80点以上)・B(70点以上80点未満)・C(60点以上70点未満)・D(60点未満)とする。		
使用テキスト	図解&事例で学ぶマーケティングの教科書		
参考文献	コラーのマーケティング30 ・ マーケティング戦略 コラーのマーケティング入門 ・ 鍼灸院経営術 ; 富田秀徳		

科目名	英語		
担当教員	米田 春美	実務経験の有無及び経歴	
対象学年	2年	開講学期	通年
単位数	講義 2単位	時間数	30時間
科目の概要	鍼灸治療を英語で行うための基礎英語表現と語彙を学ぶ。		
科目の目標	外国人が鍼灸治療を受けに来た際、また、海外で鍼灸治療を行う際に対応できる英語力を養う。		
学習の到達目標	患者の訴えを理解するための身体や症状に関する語彙、また、施術や指導する際に必要な英語表現を口頭で言える力を身に着ける。		
学習方法・学習上の注意	積極的に英語会話訓練に参加する姿勢が求められる。また、語彙を蓄えるためのカード作成及び提出を怠らない。		
関連科目			
持参物	テキストとして使用する資料、語彙学習用のカード		
講義計画	講義内容		
1	語彙①人体各部の名称:外部器官 会話①電話での予約		
2	語彙②人体各部の名称:筋骨格系 会話②初診		
3	語彙③人体各部の名称:内部器官(1) 会話③問診		
4	語彙④人体各部の名称:内部器官(2) 会話④治療を行いながらの会話や指示		
5	語彙⑤診療科名 会話⑤灸治療の会話		
6	語彙⑥症状:風邪、インフルエンザ、消化器系 会話⑥電気灸治療の会話		
7	語彙⑦症状:その他の症状と兆候 会話⑦問診用の様々な表現		
8	語彙⑧主な病気 会話⑧便利な表現、よくある質問と答え方		
9	語彙⑨産婦人科系病気 会話⑨鍼灸治療に使う基本動詞のまとめ		
10	語彙⑩外傷と救急 鍼灸学基礎理論の英語(1)		
11	語彙⑪鍼灸による治療効果がWHOに承認されている疾患 鍼灸学基礎理論用語の英語(2)		
12	筆記試験および口頭試験対策総復習 (1)		
13	筆記試験および口頭試験対策総復習 (2)		
14	口頭試験実施		
15	筆記試験実施		
成績評価の方法と基準	評価方法:筆記試験60%、課題提出5%、小テスト5%、口頭試験30% 評価基準:学則に従いA(80点以上)・B(70点以上80点未満)・C(60点以上70点未満)・D(60点未満)とする。		
使用テキスト	語彙、会話表現、英語対訳付問診票によって構成される資料		
参考文献	Easy Nursing English(南山堂) クリスティーンのやさしい看護英会話(医学書院)		

科目名	中国語		
担当教員	孫犁冰	実務経験の有無及び経歴	
対象学年	1年	開講学期	通年
単位数	講義 2単位	時間数	30時間
科目の概要	中国語とは、日本語と同じく漢字を用いる中国語を会話で楽しむ授業である。 基本的な文法項目と発音を身につけ、中国語でのコミュニケーション能力を養う。 近年、中国は産業・経済各方面において著しい成長が見られ、国際社会における存在感が高まりつつある。日本に近いようで遠い中国を知るためには、この授業はその第一歩である。		
科目の目標	・中国語の発音記号である「ピンイン」を正確に読むことができる。 ・単語、構文、文法について理解し、応用できる。 ・簡単な日常会話を中国語で話すことができる。 ・辞書を引きながら中国語の文章を日本語に訳すことができる。		
学習の到達目標	・会話ができるように復習やレポート課題に積極的に取り組むことができる。 ・中国語を学ぶことによって、国際視野が広がり、考える力をより一層高めることができる。		
学習方法・学習上の注意	・授業中、大きな声で音読する。 ・授業内容は録音、録画可。		
関連科目			
持参物	黄色・水色・緑色のマーカー		
講義計画	講義内容		
1	ウォーミングアップ：中国語学習の秘訣		
2	第1課 はじめまして（基本文15、新出語30）		
3	第2課 ありがとう（基本文15、新出語30）		
4	第3課 地図を買う（基本文15、新出語30）		
5	第4課 交流（基本文15、新出語30）		
6	第5課 いつ（基本文15、新出語30）		
7	第6課 どのくらい（基本文15、新出語30）		
8	第7課 私の一日（基本文15、新出語30）		
9	第8課 家族写真（基本文15、新出語30）		
10	第9課 私の趣味（基本文15、新出語30）		
11	第10課 天気を語る（基本文15、新出語30）		
12	第11課 銀行にて（基本文15、新出語30）		
13	第12課 飛行機に乗る（基本文15、新出語30）		
14	第13課 道を尋ねる（基本文15、新出語30）		
15	第14課 タクシーに乗る（基本文15、新出語30）		
成績評価の方法と基準	評価方法：期末試験50%、小テスト30%、学習意欲（授業態度）20% 評価基準：学則に従いA(80点以上)・B(70点以上80点未満)・C(60点以上70点未満)・D(60点未満)とする。		
使用テキスト	孫犁冰著『30日で身につけよう中国語会話』株式会社好朋友(2018)、2,000円		
参考文献	特になし		

科目名	スタディスキルズ		
担当教員	山崎 史恵	実務経験の有無及び経歴	
対象学年	1年	開講学期	前期
単位数	講義 1単位	時間数	15時間
科目の概要	今後本学で授業や実習、試験勉強等を進めていくうえで、知っておくべき学習についての知識や身につけておくべき基礎的な能力を養う。また試験勉強等に積極的かつ自主的に取り組むためのモチベーションの維持や、効率的な暗記法などにも触れる。		
科目の目標	本授業で学んだことを活かしながら、各専門科目を能動的に受講できるようになること(聴く、読む、書く、考える、疑問を持つ)。また、自宅学習(復習)や試験勉強においては積極的かつ自主的に、工夫して課題に取り組めるようになること(調べる、整理する、覚える)。		
学習の到達目標	スタディースキルとはどのようなスキルかを具体的に説明できる 自分がどの程度スタディースキルを身につけているか現状を把握し、課題を見つける 実際の授業や自習、試験勉強などのシーンに関連づけて各スキルを実践できる		
学習方法・学習上の注意	本授業で学んだことを積極的に日々の授業で実践すること		
関連科目			
持参物			
講義計画	講義内容		
1	オリエンテーション スタディースキルとは？		
2	スタディースキルの現状―自己分析―		
3	記憶(記憶の仕組み、復習の意義)		
4	記憶(暗記法、定着のための工夫)		
5	学習(条件づけ、習慣を身につける)		
6	学習(行動修正、行動変容)		
7	思考(情報を調べる、整理する)		
8	思考(問題解決、柔軟な考え方)		
成績評価の方法と基準	評価方法:レポート70%, 学習意欲(出席状況含む)30% 評価基準:学則に従いA(80点以上)・B(70点以上80点未満)・C(60点以上70点未満)・D(60点未満)とする。		
使用テキスト	適宜プリントを配布		
参考文献			

科目名	コミュニケーション技法		
担当教員	中島 郁子	実務経験の有無及び経歴	
対象学年	1年	開講学期	前期
単位数	講義 2単位	時間数	30時間
科目の概要	1. コミュニケーションの基本となる「聞く」ことについて、基礎を学ぶ 2. コミュニケーションに必要な「話す」ことについて学ぶ 3. 仕事の様々な場面にふさわしいコミュニケーションについて学ぶ		
科目の目標	コミュニケーションのスキルは、社会人として必要な能力である。様々な場面を想定したコミュニケーションの知識を学び、実践力を身につけることを目標とする。		
学習の到達目標	1. コミュニケーションの基本となる聞く力を養う 2. コミュニケーションに必要な話す力を養う 3. 仕事の様々な場面にふさわしいコミュニケーションを理解する		
学習方法・学習上の注意	毎時間プリントを配布する。テキストとプリントに沿って授業を行う。 また、授業内で検定に向けた練習問題も行う。授業後、各自で復習すること。		
関連科目			
持参物	テキスト、ノート等		
講義計画	講義内容		
1	オリエンテーション		
2	コミュニケーションを考える		
3	聞く力 目的に即して聴く		
4	聞く力 傾聴・質問する		
5	話す力 目的を意識する・話を組み立てる		
6	話す力 ことばを選び抜く		
7	話す力 表現・伝達する		
8	来客対応・電話対応		
9	アポイントメント・訪問・挨拶		
10	情報共有の重要性		
11	チーム・コミュニケーション		
12	接客・営業・クレーム対応		
13	会議・取材・ヒアリング・面接		
14	練習問題・復習		
15	試験		
成績評価の方法と基準	評価方法：期末試験80%、学習意欲（授業態度）10%、出席状況10% 評価基準：学則に従いA(80点以上)・B(70点以上80点未満)・C(60点以上70点未満)・D(60点未満)とする。		
使用テキスト	・コミュニケーション検定初級 公式ガイドブック&問題集 （サーティファイ コミュニケーション能力認定委員会編）		
参考文献			

科目名	情報処理Ⅰ		
担当教員	小林 克明	実務経験の有無及び経歴	
対象学年	1年	開講学期	前期
単位数	講義 2単位	時間数	30時間
科目の概要	Microsoft Word&Excelの操作方法を身につける		
科目の目標	WordとExcelの操作が自分の利用シーンに合わせて、不自由なくできるようになること。または、わからないことを自分なりに調べて知識を増やすことができるようになること。及び、メールの作成方法を身につけること。		
学習の到達目標	Word…インデントやタブを使って見栄えの良い定型文が作成できること。及び、図形や表を挿入して分かりやすい文章作成ができる。 Excel…目的に応じたデータベースを作成できること。簡単な関数が使えること。		
学習方法・学習上の注意	内容が身につくように、操作をする時間をできるだけ多く取る。		
関連科目	情報処理Ⅱ		
持参物	毎回配るテキスト、筆記用具など		
講義計画	講義内容		
1	オリエンテーション		
2	授業内容の説明、メールの送受信の練習、		
3	Word基礎(入力)		
4	Word編集、いろいろなコピー		
5	Word インデント、タブ		
6	Word 図形の挿入		
7	Word オリジナルカードの作成		
8	Word 表の挿入、確認問題		
9	Excel 表を作る、編集		
10	Excel 計算式の挿入、(手入力)		
11	Excel 計算式の挿入、(関数)		
12	Excel グラフの作成		
13	Excel データベース機能を使う		
14	Excel 印刷に関する各種設定		
15	Excel 確認問題		
成績評価の方法と基準	出席状況(学校の基準による)及び授業態度(真剣に取り組んでいるか)20%、提出物(有無、内容)10%、Word&Excelそれぞれ科目終了時の確認問題(授業の内容が理解できているか)70%		
使用テキスト	小林自作のテキストプリント		
参考文献	各問題集など		

科目名	情報処理Ⅱ		
担当教員	小林 克明	実務経験の有無及び経歴	
対象学年	1年	開講学期	前期
単位数	講義 1単位	時間数	15時間
科目の概要	Microsoft PowerPointの操作方法を身につける		
科目の目標	目的に応じて、わかりやすいプレゼンテーションを作成し、それをもとに発表をすること。		
学習の到達目標	自分の伝えたい内容を視覚的にわかりやすくまとめたスライドの作成ができる。また、それをもとに皆の前で発表ができる。		
学習方法・学習上の注意	実際に操作と発表に挑戦する		
関連科目	情報処理Ⅰ		
持参物	毎回配るテキスト、筆記用具など		
講義計画	講義内容		
1	PowerPoint スライド作成の基礎		
2	PowerPoint 入力の仕方		
3	PowerPoint スライドに表、グラフ、図形を追加する		
4	PowerPoint アニメーションの追加		
5	PowerPoint 練習問題		
6	PowerPoint 「自分について」のプレゼンテーション作成		
7	PowerPoint 作成したプレゼンテーションの発表		
8	PowerPoint 各自の発表とその感想をまとめる		
成績評価の方法と基準	出席状況(学校の基準による)及び授業態度(真剣に取り組んでいるか)20%、提出物(有無、内容)10%、プレゼンテーションの発表(プレゼンテーションに指定の内容が盛り込んでいるか。おもに自分自身を表現できているか。元気に発表しているか)70%		
使用テキスト	小林自作のテキストプリント		
参考文献	市販の問題集など		

科目名	解剖学Ⅰ		
担当教員	影山 幾男	実務経験の有無及び経歴	
対象学年	1年	開講学期	通年
単位数	講義 3単位	時間数	45時間
科目の概要	人体解剖学では正常なヒトの構造について肉眼解剖学的に諸器官の形態学的特徴と人体の構造を理解する。「解剖学Ⅲ」では「神経解剖学」、「脈管学」の講義を扱う。 「神経解剖学」では、刺激を伝達・統合する神経系の解剖学的特徴について学ぶ。「脈管学」では、物質運搬の交通網である脈管系について学ぶ。 人体解剖学の理解には、ヒトのからだを系統別に分けて理解するだけではなく、ヒトの発生過程や脊椎動物の進化過程についても思いをめぐらし、形態形成学を学ぶことが肝心である。		
科目の目標	人体の正常な形態と構造について学び、鍼灸師として必要な解剖学的知識を修得する。		
学習の到達目標	神経解剖学の到達目標： ・ 脳神経の種類、走行、線維構築および支配領域を説明できる。 ・ 脳脊髄神経と自律神経の違いについて説明できる。 ・ 脳と脊髄の基本的構造を説明できる。 脈管学の到達目標： ・ 動脈、毛細血管及び静脈の構造と血管系の役割を説明できる。 ・ 体循環と肺循環の2系統を説明できる。 ・ 心臓の基本構造と機能を説明できる。 ・ 動脈と静脈の流れの概略を説明できる。 ・ 上肢・下肢・体幹の血液循環の概略を説明できる。 ・ 胎児循環について説明できる。 ・ リンパ系の概要について説明できる。 感覚器系の到達目標 ・ 視覚器について説明できる。 ・ 平衡聴覚器について説明できる。 ・ 味覚器について説明できる。 ・ 嗅覚器について説明できる。 ・ 皮膚について説明できる。		
学習方法・学習上の注意	教科書を読んで理解できなかった事項について焦点をあてた講義を行うので、事前に配布する教科書「解剖学」の該当するページを熟読した上で、予備知識を持って講義に臨むこと。また、講義ごとに講義内容のプリントを配布する。		
関連科目	生理学、病理学		
持参物	教科書、配布プリント、小テスト		
講義計画	講義内容		
1	中枢神経系①：A神経系の基礎 1神経系の区分と特徴 2神経組織 a.神経細胞(ニューロン) b.神経細胞の種類 c.支持細胞、電話局の話		
2	中枢神経系②：3灰白質、白質と神経節、根 4中枢神経系の区分		
3	中枢神経系③：5脳室系 6髄膜と脳脊髄液 a.硬膜 b.クモ膜 c.軟膜		
4	中枢神経系④：脳 1各部の形態と機能 a.終脳(大脳半球) 溝と回、中枢神経系の血管		
5	中枢神経系⑤：脳 1各部の形態と機能 a.終脳(大脳半球) 機能局在		
6	中枢神経系⑥：脳 1各部の形態と機能 a.終脳(大脳半球) 大脳基底核		
7	中枢神経系⑦：脳 1各部の形態と機能 b.間脳 c.中脳、橋、延髄、d.小脳		
8	中枢神経系⑧：脊髄 a.前根と後根(ベル・マジャンディーの法則) b.脊髄の内部構造		
9	中枢神経系⑨：伝導路1 a.下行性伝導路		
10	中枢神経系⑩：伝導路2 b.上行性伝導路 c.反射路		
11	末梢神経系① 1脳神経 I.嗅神経 II.視神経 III.動眼神経 IV.滑車神経の起始・走行・分布・障害		
12	末梢神経系② 1脳神経 V.三叉神経 VI.外転神経 VII.顔面神経の起始・走行・分布・障害		
13	末梢神経系③ 1脳神経 VIII.内耳神経 IX.舌咽神経 X.迷走神経 XI.副神経 XII.舌下神経の起始・走行・分布・障害		
14	末梢神経系④ 2脊髄神経 a.脊髄神経後枝 b.頸神経叢		
15	末梢神経系⑤ 2. 脊髄神経 c.腕神経叢 d.胸神経 e.腰神経叢		
16	末梢神経系⑥ 2. 脊髄神経 f.仙骨神経叢 g.陰部神経叢 h.尾骨神経 i.デルマトーム		
17	神経解剖学⑦：3自律神経系 a.交感神経系 b.副交感神経系 c.関連痛		
18	脈管学①：A総論 1体循環と肺循環 a.肺循環 b.体循環 2血管の形態と構造 a.形態 b.構造 B心臓 1心臓の位置と形態 2心臓の構造 3心臓の弁 a.房室弁 b.動脈弁		
19	脈管学②：4心臓壁の構造 a.心内膜 b.心筋層 c.心外膜 5刺激伝導系 a.洞房系 b.房室系 6心臓の脈管(冠状動脈・冠状静脈洞) a.右冠状動脈 b.左冠状動脈 c.冠状静脈洞 7心臓の神経 8心膜 a.線維性心膜 b.漿膜性心膜		
20	脈管学③：C心脈管系 C-1肺循環(小循環) C-2体循環(大循環) 1動脈系 a.大動脈 b.頭部、頸部の動脈 c.上肢の動脈 d.胸大動脈 e.腹大動脈 f.骨盤部の動脈 g.下肢の動脈		
21	脈管学④：2静脈系 a.上大静脈 b.下大静脈 c.門脈 d.骨盤部の静脈 e.下肢の静脈		
22	脈管学⑤：3胎児循環 Dリンパ系 1リンパ本幹 2リンパ性器官 a.リンパ節の構造 b.リンパ節の分布 c.脾臓 d.胸腺		
23	感覚器系：視覚器、平衡聴覚器、皮膚、味覚器、嗅覚器		
成績評価の方法と基準	評価方法：「客観試験」および「記述試験」を実施し、60点以上を合格とする。 評価基準：学則に従いA(80点以上)・B(70点以上80点未満)・C(60点以上70点未満)・D(60点未満)とする。		
使用テキスト	「解剖学」第2版 医歯薬出版、河野邦雄、伊藤隆造他著		
参考文献	分担解剖学2、金原出版、平沢興著		

科目名	解剖学Ⅱ		
担当教員	小林 一広	実務経験の有無及び経歴	
対象学年	1年	開講学期	前期
単位数	講義 3単位	時間数	45時間
科目の概要	解剖学は医療の基礎となる重要な学問である。医療を携わる上で、人体を構成する諸器官の形態と構造、それらの機能を理解することは必須である。 1.人体を構成する諸器官の形態や構造について学ぶ。 2.更に人体を総合的に理解するために、形態や構造と機能との関連性について学ぶ。		
科目の目標	人体を総合的に理解するために、人体を構成する諸器官の形態と構造と機能との関連知識を身につける。		
学習の到達目標	1. 人体を構成する諸器官について理解する。 2. 人体を構成する諸器官の形態について理解する。 3. 人体を構成する諸器官の構造について理解する。 4. 人体を構成する諸器官の形態や構造と機能との関連性について理解する。		
学習方法・学習上の注意	次回の講義について予習し、毎回講義をしっかりと受講し、また講義後の復習も励行し、理解しておくこと。		
関連科目	生理学		
持参物	教科書(解剖学)、配布プリント、ノート		
講義計画	講義内容		
1	消化器全般の構成について理解する。		
2	消化管(口腔)の構造と機能を理解する。		
3	消化管(咽頭・食道)の構造と機能を理解する。		
4	消化管(胃)の構造と機能を理解する。		
5	消化管(小腸)の構造と機能を理解する。		
6	消化管(大腸)の構造と機能を理解する。		
7	消化器(肝臓)の構造と機能を理解する。		
8	消化器(膵臓・腹膜)の構造と機能を理解する。		
9	泌尿器(腎臓)の構造と機能を理解する。		
10	泌尿器(尿管・膀胱・尿道)の構造と機能を理解する。		
11	男性生殖器(精巣・精路)の構造と機能を理解する。		
12	男性生殖器(付属腺・外陰部)の構造と機能を理解する。		
13	女性生殖器(卵巣・卵管・子宮)の構造と機能を理解する。		
14	女性生殖器(陰・付属腺・外陰部)の構造と機能を説明する。性周期と分泌するホルモンを理解する。		
15	これまでの学習内容を復習し理解する。		
16	内分泌器(下垂体)の構造と機能を理解する。		
17	内分泌器(甲状腺・副腎)の構造と機能を理解する。		
18	内分泌器(膵臓・性腺)の構造と機能を理解する。		
19	呼吸器(鼻腔)の構造と機能を理解する。		
20	呼吸器(咽頭・喉頭・気管・気管支)の構造と機能を理解する。		
21	呼吸器(肺・胸膜・縦隔)の構造と機能を理解する。		
22	これまでの学習内容を復習し理解する。		
23	これまでの学習内容を復習し理解する。		
成績評価の方法と基準	評価方法: 定期試験100% 評価基準: 学則に従いA(80点以上)・B(70点以上80点未満)・C(60点以上70点未満)・D(60点未満)とする。		
使用テキスト	解剖学(医歯薬出版株式会社)		
参考文献			

科目名	解剖学Ⅲ		
担当教員	佐藤 徳昭	実務経験の有無及び経歴	
対象学年	1年	開講学期	通年
単位数	講義 4単位	時間数	60時間
科目の概要	人体の仕組みと成り立ちを学習し、個々の仕組みを理解しそれぞれの関連性を系統的に学び、専門医学学習上の基礎を築く。まとめて、解剖実習を行い標本にて確認する。鍼灸臨床の中で解剖学は、基礎の分野でも重要な位置を占める。解剖学の知識が乏しければ、経絡経穴・鍼灸実技・手技療法等々全ての科目の学習がむずかしくなる。この点を踏まえて各部の名称と機能を学習し今後の学習のための基礎を作る。		
科目の目標	頭部・体幹・四肢の筋肉や骨の名称、またそれらの機能などを知ること、人体における筋肉運動の重要性を学ぶ。		
学習の到達目標	人体の筋肉・骨の位置関係や機能を知り、その知識を鍼灸治療における病態把握の一助として、また取穴の際の指標として活用できること。		
学習方法・学習上の注意	配布したプリント、及び資料の整理		
関連科目	①経絡経穴概論 経穴の部位を理解するためには、指標となる骨や筋の位置関係を知っておく必要がある ②実技各種 目標とする筋に施術するためには、筋の起始・停止や正確な位置を把握しておく必要がある		
持参物	配布プリント。3色以上の蛍光ペン。ノート。		
講義計画	講義内容		
1～4	解剖学基礎（細胞・組織）		
5～6	神経系と循環器系		
7～8	運動器系 総論		
9～10	脊柱と胸郭		
11～12	上肢帯と自由上肢の骨		
13～14	下肢帯と自由下肢の骨		
15～17	頭蓋骨		
18～20	末梢神経系		
21	中間試験／下肢帯と大腿の筋		
22	下腿と足の筋		
23	上肢帯と上腕の筋		
24	前腕の筋		
25	手の筋		
26	胸筋／腹筋		
27	会陰筋／背筋		
28～29	頭部と頸部の筋		
30	期末試験及び解説		
成績評価の方法と基準	評価方法：中間試験と期末試験80%、学習意欲（出席状況を含む）20% 評価基準：学則に従いA（80点以上）・B（70点以上80点未満）・C（60点以上70点未満）・D（60点未満）とする。		
使用テキスト	『解剖学 第2版』：東洋療法学校協会		
参考文献	『ネッター 解剖学アトラス 第4版』：南山堂 『グレイ解剖学アトラス』：エルゼビア・ジャパン株式会社 『イラスト解剖学 第5版』：中外医学社 『解剖アトラス 第3版』：文光堂 その他、多数		

科目名	生理学 I		
担当教員	御書隆之	実務経験の有無及び経歴	
対象学年	1年生	開講学期	通年
単位数	講義 4単位	時間数	60時間
科目の概要	生理学 I では日頃私たちが意識することなく働いている身体の仕組みについて学習します。例えば、心臓が動く仕組み、呼吸ができる仕組み、尿が出る仕組みなどです。このような働きは意識して変化するわけではありませんが、私たちの生命維持には欠かせない働きです。		
科目の目標	人の体の働きを学びます。私たちは寝ているときも体は活動しています。そのように、生理学 I では生命活動の仕組みについて学び理解します。正常な身体の仕組みを理解することは、例えば病気になったときに体のどこが悪いか理解することにも繋がります。		
学習の到達目標	生理学の基礎を学び、理解し、更に循環系・呼吸系・消化系・排泄系・内分泌系の生理機能について理解する。		
学習方法・学習上の注意	毎時間プリントを配布し、プリントの記述に沿って授業を行う。欠席した場合、友人からプリントを借りるなどして、自分でしっかりフォローしておいて下さい。		
関連科目	解剖学、病理学、病態生理、臨床医学総論、臨床医学各論		
持参物	教科書(生理学)、配布プリント		
講義計画	講義内容		
1	導入、生理学の基礎①		
2	生理学の基礎②		
3	循環①		
4	循環②		
5	循環③		
6	循環④		
7	循環⑤		
8	循環⑥		
9	循環⑦		
10	循環⑧		
11	循環⑨		
12	呼吸①		
13	呼吸②		
14	呼吸③		
15	呼吸④、消化と吸収①(導入)		
16	消化と吸収②		
17	消化と吸収③		
18	消化と吸収④		
19	消化と吸収⑤		
20	消化と吸収⑥		
21	排泄①		
22	排泄②		
23	排泄③		
24	内分泌①		
25	内分泌②		
26	内分泌③		
27	内分泌④		
28	内分泌⑤		
29	内分泌⑥		
30	復習(消化と吸収～内分泌)		
成績評価の方法と基準	評価方法:試験80%、学習意欲(授業態度)10%、出席状況10% 評価基準:学則に従いA(80点以上)・B(70点以上80点未満)・C(60点以上70点未満)・D(60点未満)とする。試験結果を総合的にみて成績評価を行う。中間試験結果が60%未満の者には確認試験を行い、期末試験結果で60%未満の者には再試験を行う。また授業態度が悪い、授業中の食事などがあった場合は減点、欠席扱いとすることがあります。		
使用テキスト	生理学 第3版(医歯薬出版株式会社)		
参考文献	集中講義生理学 メジカルビュー社 新生理学 日本医事新報社		

科目名	生理学Ⅱ		
担当教員	新村孝雄	実務経験の有無及び経歴	
対象学年	1年	開講学期	通年
単位数	講義 4単位	時間数	60時間
科目の概要	生物が示す生命現象を理解し、様々な生命現象が協調と統制によって人体生活動が維持されていることを理解する。特に、生理学を学んだ後に病態生理・臨床医学各論とつながるように暗記に頼らず理解をして、最終目標である鍼灸臨床で患者に説明できるような活用できる知識を習得する		
科目の目標	患者に人体の正常な状態はどのような状態であるか自らの言葉で表現できるようになる。その後、2年次には生理学や解剖学をベースとして病態生理を学び患者にその病態を説明できるようにする。		
学習の到達目標	生理学の基礎を学び、栄養と代謝・体温・生殖・成長と老化・神経・筋・運動・感覚が身体の中で何が起きているのかを理解できるようにする。		
学習方法・学習上の注意	配布プリントと教科書をもとに講義		
関連科目	病理学概論:学習した生理機能の問題が病理となるため、生理学知識の復習を行う。 病態生理:生理・病理を踏まえて病態生理が成立するため、生理学知識の復習を行う。 臨床医学各論:総まとめとして、生理学知識の復習を行う。		
持参物			
講義計画	講義内容		
1	体温(1)		
2	体温(2)		
3	体温(3)		
4	代謝(1)		
5	代謝(2) 小テスト(体温)		
6	代謝(3)		
7	代謝(4)		
8	生殖(1)		
9	生殖・成長と老化(2) 小テスト(代謝)		
10	生殖・成長と老化(3)		
11	生殖・成長と老化(4)		
12	神経(1)		
13	神経(2) 小テスト(生殖・成長と老化)		
14	神経(3)		
15	神経(4)		
16	神経(5)		
17	神経(6)		
18	神経(7)		
19	神経(8)		
20	感覚(1) 小テスト(神経)		
21	感覚(2)		
22	感覚(3)		
23	感覚(4)		
24	筋(1) 小テスト(感覚)		
25	筋(2)		
26	筋(3)		
27	運動(1) 小テスト(筋)		
28	運動(2)		
29	運動(3)		
30	小テスト(運動) 問題演習		
成績評価の方法と基準	評価方法:各章ごとの小テストと期末試験により評価する。 評価基準:学則に従いA(80点以上)・B(70点以上80点未満)・C(60点以上70点未満)・D(60点未満)とする。		
使用テキスト	医歯薬出版株式会社 生理学		
参考文献	医学書院 標準生理学		

科目名	解剖生理 I		
担当教員	角田 朋之	実務経験の有無及び経歴	
対象学年	2年	開講学期	通年
単位数	講義 3単位	時間数	45時間
科目の概要	1年次に履修した解剖学と生理学を系統別に学習する。		
科目の目標	各系統ごとに正常な構造および機能を理解し、説明できる。		
学習の到達目標	1年次に使用した資料や教科書等を含め、自主的にまとめを行うことができる。		
学習方法・学習上の注意	字だけで覚えない。「身体のどの辺りで何が行われているのか」というイメージをしながら学ぶ。		
関連科目	解剖学 I・II、生理学 I・II、臨床医学総論、臨床医学各論 I・II・III		
持参物	教科書・筆記用具(色ペン複数本)・配布プリント		
講義計画	講義内容		
1	オリエンテーション・循環器系		
2～6	循環器系		
7～11	消化器系		
12～16	内分泌		
18～20	呼吸器系		
21～23	泌尿器系		
成績評価の方法と基準	評価方法: 期末試験の得点(80%)、授業態度(10%)、出席状況(10%) 評価基準: 学則に従い A(80点以上)・B(70点以上80点未満)・C(60点以上70点未満)・D(60点未満)とする。		
使用テキスト	配布プリント		
参考文献	解剖学第2版(医歯薬出版) 生理学第3版(医歯薬出版)		

科目名	解剖生理Ⅱ		
担当教員	岩村英明	実務経験の有無及び経歴	
対象学年	2年	開講学期	通年
単位数	講義 3単位	時間数	45時間
科目の概要	1年次に学習した解剖学と生理学のまとめと統合を行う。 解剖生理Ⅱでは「体温」、「生殖・成長・老化」、「神経」、「筋」、「運動」、「感覚」を扱う。		
科目の目標	同一分野での解剖と生理の統合を行い、病態把握など臨床での鑑別能力の基礎となる知識をしっかりと定着させる。		
学習の到達目標	1. 体温に関する内容について知識を定着させる。 2. 生殖・成長・老化に関する内容について知識を定着させる。 3. 神経に関する内容について知識を定着させる。 4. 筋に関する内容について知識を定着させる。 5. 運動に関する内容について知識を定着させる。 6. 感覚に関する内容について知識を定着させる。		
学習方法・学習上の注意	毎時間プリントを配布し、プリントの記述に沿って授業を行う。予習・復習はしっかり行う。		
関連科目	解剖学、生理学		
持参物	教科書(解剖学、生理学)、配布プリント		
講義計画	講義内容		
1	体温		
2～3	生殖・成長・老化		
4～11	神経		
12～13	復習		
14	筋		
15～17	運動		
18～22	感覚		
23	復習		
成績評価の方法と基準	評価方法:試験80%、学習意欲・授業態度(出席状況を含む)20% 評価基準:学則に従いA(80点以上)・B(70点以上80点未満)・C(60点以上70点未満)・D(60点未満)とする。		
使用テキスト	解剖学 第2版(医歯薬出版株式会社) 生理学 第3版(医歯薬出版株式会社)		
参考文献			

科目名	運動学		
担当教員	角田 朋之	実務経験の有無及び経歴	
対象学年	2年	開講学期	後期
単位数	講義 2単位	時間数	30 時間
科目の概要	運動学は人の動き(movement)、動作(motion)を主として対象とする学問であり、解剖学、生理学、力学などを基礎にする。		
科目の目標	運動を可能にしている構造とその 機構(mechanism) を理解する。		
学習の到達目標	1. 運動学の理念について理解する。2. 運動学の基礎についての知識を身につける。 3. 身体各部の機能を理解する。		
学習方法・学習上の注意	教科書の音読、出題形式のプリントを配布し、回答させて後に解説を行う。予習と復習をさせる。		
関連科目	解剖学 生理学		
持参物	教科書(リハビリテーション医学)、配布プリント		
講義計画	講義内容		
1	関節と運動の力学		
2	姿勢とその異常		
3	運動路と感覚路		
4	反射と随意運動		
5	脊柱と体幹の機能		
6	肩甲帯と肩の機能①		
7	肩甲帯と肩の機能②		
8	肘と前腕の機能		
9	手と手指の機能		
10	骨盤と股関節の機能		
11	膝関節の機能①		
12	膝関節の機能②		
13	足の機能		
14	正常歩行と異常歩行		
15	顔面および頭部の筋		
成績評価の方法と基準	評価方法: 期末試験の得点(80%)、授業態度(10%)、出席状況(10%) 評価基準: 学則に従いA(80点以上)・B(70点以上80点未満)・C(60点以上70点未満)・D(60点未満)とする。		
使用テキスト	リハビリテーション医学(医歯薬出版株式会社)		
参考文献	解剖学アトラス(文光堂)		

科目名	病理学概論		
担当教員	御書隆之	実務経験の有無及び経歴	
対象学年	2年生	開講学期	前期
単位数	講義 2単位	時間数	30時間
科目の概要	1年生では正常構造や機能を系統的に学びましたが、2年生でこれから学ぶ病理学概論はこれらの基礎医学系科目と、今後登場する臨床医学系科目とをリンクさせる重要な役割を担う科目です。人体の疾病についての原因や病態などが考察できる基礎的な病理学的知識を習得します。		
科目の目標	概要でも述べたように、人体の疾病についての原因や病態などが考察できる、基礎・基本的な病理学的知識を習得すること。このような知識を習得し今まで漠然としていた疾病への理解を深めていきます。		
学習の到達目標	1. 病理学とは何かを理解する。2. 疾病の分類について覚える。3. 病因について覚える。4. 循環障害について理解する。5. 退行性病変について理解する。6. 進行性病変について理解する。7. 炎症について理解する。8. 腫瘍について理解する。9. 免疫異常・アレルギーについて理解する。10. 先天性異常について理解する。		
学習方法・学習上の注意	毎時間プリントを配布し、プリントの記述に沿って授業を行う。 欠席した場合、友人からプリントを借りるなどして、自分でしっかりフォローしておいて下さい。		
関連科目	生理学、衛生学、臨床医学総論、臨床医学各論、はりきゅう理論		
持参物	教科書(病理学概論)、配布プリント		
講義計画	講義内容		
1	病理学の定義と分類～予後及び転帰		
2	病因①		
3	病因②		
4	病因③、循環障害①		
5	循環障害②		
6	循環障害③、退行性病変		
7	進行性病変		
8	中間試験		
9	炎症①		
10	炎症②		
11	腫瘍①		
12	腫瘍②		
13	腫瘍③、免疫異常・アレルギー①		
14	免疫異常・アレルギー②、染色体異常①		
15	先天性異常		
成績評価の方法と基準	評価方法:試験80%、学習意欲(授業態度)10%、出席状況10% 評価基準:学則に従いA(80点以上)・B(70点以上80点未満)・C(60点以上70点未満)・D(60点未満)とする。試験結果を総合的にみて成績評価を行う。中間試験結果が60%未満の者には確認試験を行い、期末試験結果で60%未満の者には再試験を行う。また授業態度が悪い、授業中の食事などがあった場合は減点、欠席扱いとすることがあります。		
使用テキスト	『病理学概論 第2版』:医歯薬出版株式会社		
参考文献	アンダーウッド 病理学 西村書店、カラーで学べる 病理学 NOUVELLE HIROKAWA		

科目名	臨床医学総論		
担当教員	新村孝雄	実務経験の有無及び経歴	
対象学年	2年	開講学期	前期
単位数	講義 4単位	時間数	60時間
科目の概要	臨床で患者様から得られる所見を元に、病名や予後をある程度推定できるようにし、鍼灸施術につなげていけるようにする。また、鍼灸施術を回避し、医療機関に迅速に送らなければならないレッドフラッグ疾患を見逃さないスキルを身に着ける。		
科目の目標	臨床所見の名前や意味と、それから類推しうる疾患名を覚える。臨床所見の取り方・検査の方法などを理解し、身に着ける。レッドフラッグ疾患の徴候を覚える。		
学習の到達目標	患者様に対して、適切な医療面接を行うための基礎知識を身に着ける。		
学習方法・学習上の注意	配布プリントと教科書をもとに講義		
関連科目	病理学概論: 疾患の病態生理や発症機序を学ぶ 臨床医学各論: 病名別に臨床所見や症状を整理し、覚える		
持参物			
講義計画	講義内容		
1	授業導入 POS 問診		
2	医療面接 打診 聴診		
3	発熱 脈拍		
4	血圧		
5	呼吸		
6	顔貌～体型・栄養状態		
7	姿勢～皮膚		
8	皮膚～頭部		
9	小テスト①		
10	顔面～耳 脳神経系の検査		
11	口腔～肺・胸膜		
12	肺・胸膜		
13	心臓～腹部		
14	四肢		
15	四肢		
16	感覚検査法 反射検査		
17	小テスト②		
18	反射検査 髄膜刺激症状検査		
19	運動麻痺～筋肉の異常		
20	不随意運動		
21	不随意運動～起立と歩行		
22	徒手による整形外科的検査法		
23	徒手による整形外科的検査法		
24	小テスト③		
25	救急時の診察		
26	一般検査		
27	血液生化学検査		
28	血液生化学検査		
29	生理学的検査および画像診断の概要		
30	生理学的検査および画像診断の概要		
成績評価の方法と基準	評価方法: 各章ごとの小テストと期末試験により評価する。 評価基準: 学則に従いA(80点以上)・B(70点以上80点未満)・C(60点以上70点未満)・D(60点未満)とする。		
使用テキスト	医歯薬出版株式会社 臨床医学総論 第2版		
参考文献	医療情報科学研究所 ビジュアルノート 第5版		

科目名	臨床医学各論Ⅰ		
担当教員	角田朋之	実務経験の有無及び経歴	
対象学年	2年	開講学期	後期
単位数	講義 3単位	時間数	45 時間
科目の概要	臨床各科の代表的な疾患を学び、これまで学習してきた西洋医学的基礎に基づき疾患を鑑別し病態を理解する。		
科目の目標	代表疾患の病態生理を理解し、類似疾患との鑑別ができるようにする。特に、緊急を要する疾患や鍼灸適応不適応の鑑別ができるようにする。そして、患者様に病態を説明して理解と同意を得られるようにする。		
学習の到達目標	感染症・消化管疾患・肝胆膵疾患・呼吸器疾患それぞれの病態生理を理解し、特徴的な所見を理解すること。		
学習方法・学習上の注意	配布プリントを毎回持ってくること。		
関連科目	全ての西洋医学的基礎分野が、関連科目となる。解剖・生理から始まり、最終段階としての臨床医学各論となる。基礎の学習が不十分では、ここで学習が困難となる。基礎が不十分であると感じる場合適宜復習をして授業に望ませるよう指導を行う。		
持参物	配布プリント		
講義計画	講義内容		
1	プロローグ/感染のメカニズム		
2	感染の防御システム①		
3	感染の防御システム②		
4	細菌感染症①		
5	細菌感染症②		
6	ウイルス感染症		
7	性感染症/その他の感染症		
8	感染症テスト/消化管疾患でみられる主要症状		
9	口腔疾患・食道疾患/悪性腫瘍概論		
10	胃十二指腸解剖生理/胃十二指腸疾患		
11	胃十二指腸疾患/大腸解剖生理		
12	大腸疾患		
13	大腸疾患/腹膜疾患		
14	消化管疾患テスト/肝臓解剖生理/肝疾患主要症状		
15	肝疾患主要症状/肝疾患		
16	肝臓疾患/胆嚢解剖生理/胆疾患		
17	胆嚢・胆道疾患		
18	膵臓解剖生理/膵臓疾患		
19	肝胆膵テスト/呼吸器解剖生理/呼吸器主要症状		
20	感染性呼吸器疾患/閉塞性呼吸器疾患		
21	閉塞性呼吸器疾患/拘束性呼吸器疾患		
22	気胸/肺癌		
23	その他の肺疾患		
成績評価の方法と基準	評価方法:試験80%、学習意欲(授業態度)10%、出席状況10% 評価基準:学則に従いA(80点以上)・B(70点以上80点未満)・C(60点以上70点未満)・D(60点未満)とする。		
使用テキスト	『臨床医学各論第2版』 医歯薬出版社		
参考文献	『病気がみえる』『ビジュアルノート』 メディックメディア社		

科目名	臨床医学各論Ⅱ		
担当教員	佐々木勇人	実務経験の有無及び経歴	
対象学年	3年	開講学期	前期
単位数	講義 4単位	時間数	60時間
科目の概要	臨床各科の代表的な疾患を学び、これまで学習してきた西洋医学的基礎に基づき疾患を鑑別し病態を理解する。		
科目の目標	代表疾患の病態生理を理解し、類似疾患との鑑別ができるようにする。		
学習の到達目標	疾患それぞれの病態生理を理解し、特徴的な所見を理解すること。		
学習方法・学習上の注意	配布プリントを毎回持ってくること。		
関連科目	解剖学・生理学・病理学		
持参物	教科書、ノート、筆記用具		
講義計画			
1～4	2年時の復習Ⅰ		
5～8	2年時の復習Ⅱ		
9～10	2年時の復習Ⅲ		
11～14	5章 腎尿路疾患		
15～18	6章 内分泌疾患		
19	まとめと確認		
20～21	7章 糖・代謝疾患		
22～26	8章 整形外科疾患		
27～29	9章 循環器疾患		
30	総まとめ		
成績評価の方法と基準	評価方法：試験80%、学習意欲（授業態度）10%、出席状況10% 評価基準：学則に従いA（80点以上）・B（70点以上80点未満）・C（60点以上70点未満）・D（60点未満）とする。		
使用テキスト	授業プリント、臨床医学各論（医歯薬出版株式会社）		
参考文献	生理学（医歯薬出版株式会社）、解剖学（医歯薬出版株式会社）		

科目名	臨床医学各論Ⅲ		
担当教員	佐々木勇人	実務経験の有無及び経歴	
対象学年	3年	開講学期	後期
単位数	講義 4単位	時間数	60時間
科目の概要	臨床各科の代表的な疾患を学び、これまで学習してきた西洋医学的基礎に基づき疾患を鑑別し、病態を理解する。		
科目の目標	代表疾患の病態生理を理解し、類似疾患との鑑別ができるようにする。		
学習の到達目標	疾患それぞれの病態整理を理解し、特徴的な所見を理解すること。		
学習方法・学習上の注意	配布プリントを毎回持参すること。		
関連科目	解剖学・生理学・病理学		
持参物	教科書、ノート、筆記用具		
講義計画			
1～4	10章 血液・造血器疾患		
5～8	11章 神経疾患		
9～10	まとめと確認		
11～14	12章 リウマチ性疾患・膠原病		
15～18	13章 その他の疾患		
19	まとめと確認		
20～21	3年時の復習Ⅰ		
22～23	3年時の復習Ⅱ		
24～25	3年時の復習Ⅲ		
26～27	3年時の復習Ⅳ		
28～29	3年時の復習Ⅴ		
30	まとめと確認		
成績評価の方法と基準	評価方法：試験80%、学習意欲(授業態度)10%、出席状況10% 評価基準：学則に従いA(80点以上)・B(70点以上80点未満)・C(60点以上70点未満)・D(60点未満)とする。		
使用テキスト	授業プリント、臨床医学各論(医歯薬出版株式会社)		
参考文献	生理学(医歯薬出版株式会社)、解剖学(医歯薬出版株式会社)		

科目名	リハビリテーション医学		
担当教員	岩村 英明	実務経験の有無及び経歴	
対象学年	2年	開講学期	通年
単位数	講義 4単位	時間数	60時間
科目の概要	1. リハビリテーションの概念、リハビリテーションに関わる医療従事者、障害の評価、リハビリテーション医療などについて学ぶ。 2. 各疾患のリハビリテーションを学ぶ。		
科目の目標	リハビリテーションとは何かを理解し、リハビリテーション医学・医療についての知識を身につける。		
学習の到達目標	1. リハビリテーションの理念について理解する。 2. 障害のとらえ方について理解する。 3. 身体障害者の動向についての知識を身につける。 4. リハビリテーションチームを構成するメンバーの職種について理解する。 5. 障害の各種評価方法を覚える。 6. 医学的リハビリテーションとしてどのような療法があるのか、またその内容について覚える。 7. 各疾患のリハビリテーションの内容について理解する。		
学習方法・学習上の注意	毎時間プリントを配布し、プリントの記述に沿って授業を行う。予習・復習はしっかり行う。		
関連科目	解剖学、生理学、臨床医学総論、臨床医学各論		
持参物	教科書(リハビリテーション医学)、配布プリント		
講義計画	講義内容		
1～3	リハビリテーションと障害、リハビリテーション医学と医療		
4～5	心身機能・身体構造の評価		
6	活動の評価、合併症の評価、運動麻痺の評価		
7	運動年齢テスト、失行失認テスト、心理的評価		
8	理学療法(運動療法)		
9	理学療法(物理療法)、作業療法、言語聴覚療法		
10～11	補装具		
12～13	復習		
14～15	脳卒中のリハビリテーション		
16～17	脊髄損傷のリハビリテーション		
18～19	切断のリハビリテーション		
20～21	小児のリハビリテーション		
22～23	骨関節疾患のリハビリテーション		
24	関節リウマチのリハビリテーション		
25	末梢神経障害のリハビリテーション		
26	パーキンソン病のリハビリテーション		
27	呼吸器疾患のリハビリテーション		
28	心疾患のリハビリテーション		
29～30	復習		
成績評価の方法と基準	評価方法: 試験80%、学習意欲・授業態度(出席状況を含む)20% 評価基準: 学則に従いA(80点以上)・B(70点以上80点未満)・C(60点以上70点未満)・D(60点未満)とする。		
使用テキスト	リハビリテーション医学(医歯薬出版株式会社)		
参考文献	リハビリテーション医学(南江堂) リハビリテーション医学テキスト(南江堂) リハビリテーションビジュアルブック(学研メディカル秀潤社) 標準リハビリテーション医学(医学書院)		

科目名	公衆衛生学		
担当教員	角田 朋之	実務経験の有無及び経歴	
対象学年	1年生	開講学期	前期
単位数	2	時間数	30
科目の概要	公衆衛生学の概論を学ぶ。最新のデータに基づき、医療技術者として知っておくべき基礎的な教養を学習する。		
科目の目標	医療技術者として、また一般教養としての公衆衛生学を学習し、患者さんに対して説明する際知識を活用できるようにする。医療技術者としての基礎素養として、他の医療技術者と共通認識できるようにする。また国家試験科目であり国家試験を合格できるレベルをしっかりと固める。		
学習の到達目標	医療技術者として必要となる公衆衛生学の知識を習得し、チーム医療の一員として他の医療技術者と共通認識できるようにするとともに国家試験問題に対応できるようにする。		
学習方法・学習上の注意	配布プリントの復習		
関連科目	生理学、医療概論、関係法規、臨床医学各論		
持参物	配布プリント、筆記用具		
講義計画	講義内容		
1～2	衛生学・公衆衛生学の意義・健康		
3～4	ライフスタイルと健康		
5～6	環境と健康		
7	産業保健		
8	精神保健		
9	母子保健		
10	母子保健、成人・高齢者保健		
11～12	感染症		
13	消毒法		
14	疫学、保健統計		
15	国際保健		
成績評価の方法と基準	評価方法：期末試験の得点（80％）、授業態度（10％）、出席状況（10％） 評価基準：学則に従いA（80点以上）・B（70点以上80点未満）・C（60点以上70点未満）・D（60点未満）とする。		
使用テキスト	公衆衛生が見える：MEDIC MEDIA、配布プリント		
参考文献	衛生学・公衆衛生学 第2版：医歯薬出版		

科目名	経営と法律		
担当教員	角田朋之	実務経験の有無及び経歴	
対象学年	3年	開講学期	前期
単位数	講義 2単位	時間数	15時間
科目の概要	法律:あん摩マッサージ指圧師、はり師、きゅう師等に関する法律 経営:実際に治療院を開業できるように、どのようなコンセプトで、どこに治療院を作るのか。経営に必要な数字の知識、資金集め、開業に必要な手続きなどのシミュレーションを行う。		
科目の目標	法律:医療従事者として、知っておかなければならない法律と罰則を理解し遵法できるようにする。 経営:開業するために必要な準備ができるようになる。		
学習の到達目標	法律:1. 法の体系について把握する。 2. あはき師免許の資格要件について覚える。3. あはき師免許に関する事務などについて覚える。4. あはき師の身分の消滅と復活について覚える。5. あはき師の業務独占、業務範囲、施術に関する注意について覚える。6. あはき師の施術所などに関する規制について覚える。7. あはき業務の停止について覚える。8. 施術者等に関する罰則、施術所に関する罰則、両罰規定について覚える。9. 医療法などについて覚える。10. 社会福祉(保険)関係の法律について覚える。 経営:損益計算書」の内容を理解できるようになる。「事業計画書」を作成できるようになる。		
学習方法・学習上の注意	法律:基本的に教科書の記述にそって授業を行う。内容として足りない部分についてはプリントを配布するなどして補完する。公衆衛生学や医療概論の授業ででてくる法律とも重なってくるので、各自それらの授業の復習も行う。 経営:将来のことをイメージし、書くことによって具現化する。		
関連科目	公衆衛生学、医療概論		
持参物	教科書(関係法規)、配布プリント、PC、電卓		
講義計画			
1	法とは何か		
2	免許と試験		
3	業務の独占と業務の範囲 ～ 業務の停止		
4	無免許営業の取り締まり ～ 罰則		
5	医療法 ～ その他の医療従事者に関する法律		
6	薬事法規、衛生関係法規		
7	社会福祉関係法規、社会保険関係法規		
8	中間試験		
9	鍼灸治療院の開業① 損益計算書		
10	鍼灸治療院の開業② 損益計算書		
11	鍼灸治療院の開業③ 事業計画書		
12	鍼灸治療院の開業④ 事業計画書		
13	鍼灸治療院の開業⑤ 事業計画書		
14	鍼灸治療院の開業⑥ 事業計画書		
15	鍼灸治療院の開業⑦ 事業計画書		
成績評価の方法と基準	評価方法:中間試験で(40%)、課題提出が(40%)、学習意欲(10%)、出席状況(10%) 評価基準:学則に従いA(80点以上)・B(70点以上80点未満)・C(60点以上70点未満)・D(60点未満)とする。		
使用テキスト	『関係法規 第7版』:医歯薬出版株式会社、配布プリント		
参考文献			

科目名	医療概論		
担当教員	御書隆之	実務経験の有無及び経歴	
対象学年	1年生	開講学期	前期
単位数	講義 1単位	時間数	15時間
科目の概要	医療人の基礎教養として、医学の歴史及び現代の医療制度ならびに医療倫理について学習する。		
科目の目標	医療制度は一般的な基礎教養であり、医療人として患者さんに有益な情報を常に提供できるように熟知する。また、医療制度は絶えず改正されるため、常に最新の情報を収集し、知識を得るように心がける。		
学習の到達目標	日常の鍼灸臨床において、基本的な鍼灸の歴史について患者さんから問われることは少なくない。知識を自分のものとして、自分の言葉で説明できるように理解する。		
学習方法・学習上の注意	毎時間プリントを配布し、プリントの記述に沿って授業を行う。欠席した場合、友人からプリントを借りるなどして、自分でしっかりフォローしておいて下さい。		
関連科目	関係法規、伝統医学概論、衛生学・公衆衛生学		
持参物			
講義計画	講義内容		
1	医学史序説・西洋医学の歴史		
2	西洋医学の歴史		
3	東洋医学の歴史		
4	日本の医学の歴史		
5	現代の医療制度		
6	現代の医療制度		
7	医療倫理		
8	期末試験		
成績評価の方法と基準	評価方法:試験80%、学習意欲(授業態度)10%、出席状況10% 評価基準:学則に従いA(80点以上)・B(70点以上80点未満)・C(60点以上70点未満)・D(60点未満)とする。試験結果を総合的にみて成績評価を行う。期末試験結果で60%未満の者には再試験を行う。また授業態度が悪い、授業中の食事などがあった場合は減点、欠席扱いとすることがあります。		
使用テキスト	教科書、配布プリント		
参考文献	『医療概論』:医歯薬出版株式会社		

科目名	経絡経穴概論		
担当教員	佐藤 徳昭	実務経験の有無及び経歴	鍼灸あん摩マッサージ指圧師として医療現場に従事
対象学年	1年	開講学期	通年
単位数	講義 6単位	時間数	90時間
科目の概要	施術部位の基本となり、診断の部位ともなる経絡経穴について学習する。流注や経穴の場所及び局所の解剖を交えて、各経絡経穴を学習する。 主として十四経脈(正経十二経脈・任脈・督脈)と要穴について学び、後半には奇穴および奇経八脈についても触れる		
科目の目標	経穴名を言われて、その経穴がどの経絡に属し、凡そどの部位にあるのか指し示することができるようにする。また、流注がイメージとして頭に入り、各経絡がどの部位を走行し、どの部位で接続しているかを理解できるようにする。要穴をしっかり記憶し、伝統医学概論・臨床論で活用することができるようにする。		
学習の到達目標	指定された経穴を正確に取り、そこに施術できるようにする。また、要穴や特効穴の知識を活用し、患者の病態に応じた選穴を考えられるようにする。		
学習方法・学習上の注意	配布したプリントの整理		
関連科目	①伝統医学概論:経絡経穴学は、伝統医学における主要学説の1つである ②伝統医学臨床論:病態に応じた選穴には、経絡経穴学の知識が必要となる ③実技各種:病態に応じた選穴をし、そこに施術するためには、その経穴を取るための知識・技術が必要となる		
持参物	配布プリント。3色以上の蛍光ペン。ノート。5mmのカラーシール		
講義計画	講義内容		
1～2	①経絡経穴の基礎 ②正経十二経脈		
3～6	督脈の流注、経穴		
7～9	任脈の流注、経穴		
10～12	肺経の流注、経穴		
13～14	大腸経の流注、経穴		
15～17	胃経の流注、経穴		
18～19	脾経の流注、経穴		
20	心経の流注、経穴		
21～22	小腸経の流注、経穴		
23～25	膀胱経の流注、経穴		
26～28	腎経の流注、経穴		
29	心包経の流注、経穴		
30～31	三焦経の流注、経穴		
32～34	胆経の流注、経穴		
35～36	肝経の流注、経穴		
37	要穴(特定穴)について		
38	難経六十九難の取穴		
39	①奇穴 ②よく知られている経穴の組み合わせ		
40	①衝脈の流注 ②帯脈の流注 ③陽蹻脈の流注		
41	①陰蹻脈の流注 ①陽維脈の流注 ③陰維脈の流注		
42	①督脈(『素問』『骨空論編』)の流注 ②『靈樞』營氣篇の中の任脈		
43	①経筋(十二経筋) ②十五絡脈 ③十二経別、十二皮部		
44	①要穴の復習 ②奇経八脈のまとめ		
45	重要ポイント確認と解説		
成績評価の方法と基準	評価方法:小テスト①～⑤80%、学習意欲(出席状況を含む)20% 評価基準:学則に従いA(80点以上)・B(70点以上80点未満)・C(60点以上70点未満)・D(60点未満)とする。		
使用テキスト	『新版 経絡経穴概論』:東洋療法学校協会		
参考文献	『臨床経絡経穴図解 第2版』:医歯薬出版株式会社 『針灸学 経穴篇』:東洋学術出版社 『臨床経穴ポケットガイド361穴』:医歯薬出版株式会社 『ツボ単』:株式会社エヌ・ティー・エス その他、多数		

科目名	伝統医学概論Ⅰ		
担当教員	大槻 健吾	実務経験の有無及び経歴	鍼灸あん摩マッサージ指圧師として医療現場に従事
対象学年	1年	開講学期	通年
単位数	座学 4単位	時間数	60時間
科目の概要	歴史的背景や哲学観をふまえ、東洋医学的な人体の解剖生理や病理について学ぶ。 (医学体系の中で完成された考え方を理解することで、西洋医学と異なる部分や共通する部分を理解する。)		
科目の目標	東洋医学的な考えから人体の解剖生理とこれらによって生じた病状について説明することができるようになる。		
学習の到達目標	患者の病状について、東洋医学的な観点から説明できるようになる。		
学習方法・学習上の注意	特有の漢字にルビをふる		
関連科目	伝統医学概論Ⅱ、経穴経絡概論、伝統医学臨床論、鍼灸理論		
持参物	教科書、配布プリント		
講義計画	講義内容		
1	オリエンテーション・東洋医学の歴史【第1章】		
2	東洋医学のルーツと歴史・人体の見方・東洋医学的治療・日本の東洋医学の現状【第1章】		
3	陰陽学説【第3章】		
4	陰陽学説・五行学説【第3章】		
5	五行学説【第3章】・精【第2章】		
6	気【第2章】		
7	血・津液【第2章】		
8	生理物質の相互関係(気血津液まとめ)【第2章】		
9	神・人体における陰陽【第2章】		
10	陰陽学説・五行学説・精・気・血・津液・人体における陰陽のまとめ		
11	臓腑(概要・臓象学説の要点)【第2章】		
12	臓腑(肝・胆)【第2章】		
13	臓腑(心・小腸・心包)【第2章】		
14	臓腑(脾・胃)【第2章】		
15	臓腑(肺・大腸)【第2章】		
16	臓腑(腎・膀胱)【第2章】		
17	臓腑(三焦)・五臓相互関係【第2章】		
18	病因病機【第2章】		
19	肝の病証・胆の病証・肝と胆の相互関係【第2章】		
20	心の病証・小腸の病証・心と小腸の相互関係【第2章】		
21	脾の病証・胃の病証・脾と胃の相互関係【第2章】		
22	肺の病証・大腸の病証・肺と大腸の相互関係【第2章】		
23	腎の病証・膀胱の病証・腎と膀胱の相互関係【第2章】		
24	五臓相互関係による病証【第2章】		
25	五臓相互関係による病証【第2章】		
26	五臓相互関係による病証【第2章】		
27	五臓相互関係による病証【第2章】		
28	経絡【第2章】		
29	まとめ		
30	まとめ		
成績評価の方法と基準	評価方法:筆記試験80%、授業内小テスト10%、学習意欲(授業態度)5%、出席状況5% 評価基準:学則に従いA(80点以上)・B(70点以上80点未満)・C(60点以上70点未満)・D(60点未満)とする。		
使用テキスト	『新版 東洋医学概論』医道の日本社		
参考文献	『わかりやすい臨床中医臓腑学』医歯薬出版 『日本鍼灸医学(経絡治療・基礎編)』経絡治療学会 『[詳解]中医基礎理論』東洋学術出版		

科目名	伝統医学概論Ⅱ		
担当教員	御書隆之	実務経験の有無及び経歴	鍼灸師として臨床現場に従事
対象学年	2年	開講学期	前期
単位数	講義 2単位	時間数	30時間
科目の概要	古来より継承と発展を続けてきた、伝統医学の哲学観に立脚し、伝統医学の生理・病理・病因を学び、それを踏まえて診断と治療方法へと結びつける。 2年次は、伝統医学Ⅰで学習した哲学観や生理・病証等を踏まえて、診断論を学ぶ。それを基に、弁証論治を行え、処方が行えるようにする。		
科目の目標	鍼灸師の根幹となる、伝統医学の基礎であり、この科目を十分に理解することで診察→診断→治療方針の立案→施術の選択といった臨床の流れの基礎を作る。伝統医学の臨床的応用となる。		
学習の到達目標	伝統医学Ⅰで学習した哲学観や生理・病証等を踏まえて、診断論を学ぶ。それを基に、弁証論治を行え、処方が行えるようにする。		
学習方法・学習上の注意	伝統医学概論Ⅰの知識の復習をすること。 生活の中の出来事を五行式体表に当てはめて考える癖をつけること。		
関連科目	経絡経穴概論：経絡流注の知識が必要となり、処方では経穴の知識が必要となる 伝統医学臨床論：この科目を踏まえたうえで、各論である臨床論へと結び付けられる		
持参物	教科書・プリント		
講義計画	講義内容		
	1. 東洋医学の診察		
	2. 望診		
	3. 聞診		
	4. 問診		
	5. 切診		
	6. 弁証		
	7. 治療法		
成績評価の方法と基準	評価方法：試験80%、学習意欲（授業態度）10%、出席状況10% 評価基準：学則に従いA(80点以上)・B(70点以上80点未満)・C(60点以上70点未満)・D(60点未満)とする。試験結果を総合的にみて成績評価を行う。中間試験結果が60%未満の者には確認試験を行い、期末試験結果で60%未満の者には再試験を行う。また授業態度が悪い、授業中の食事などがあった場合は減点、欠席扱いとすることがあります。		
使用テキスト	『新版 東洋医学概論』：医道の日本社		
参考文献	『詳解 中医基礎理論』：東洋学術出版社 『新装版 中医学入門』：東洋学術出版社 『中医学ってなんだろう ①人間のしくみ』：東洋学術出版社		

科目名	病態生理		
担当教員	御書隆之	実務経験の有無及び経歴	鍼灸師として臨床現場に従事
対象学年	3年	開講学期	前期
単位数	演習 1単位	時間数	30時間
科目の概要	病態生理では解剖・生理・病理学概論を基に代表的疾患の病態把握を行います。基礎を確認し病態を把握できる能力を確認します。		
科目の目標	1, 2年生で学習した各領域における疾病・症状を訴える患者が来院した際に、診察・病態把握を行う事が出来る、能力と知識を養うことを目標とします。		
学習の到達目標	解剖学、生理学、病理学概論、など各領域での鍼灸臨床で遭遇しやすい疾患や症候を取り上げて講義を行い、診察・病態把握を行う事が出来る、能力と知識を養うことを目標とします。		
学習方法・学習上の注意	欠席した場合は出席日数について、自己管理を行い注意するようにしてください。		
関連科目	解剖学、生理学、病理学概論、臨床医学総論		
持参物	教科書、配布プリント		
講義計画	講義内容		
1	導入、病態生理の基礎		
2	頭部		
3	頸肩部		
4	腰部		
5	下肢		
6	呼吸器		
7	消化器		
8	内分泌		
成績評価の方法と基準	評価方法:学習意欲(授業態度)60%、出席状況40% 評価基準:学則に従いA(80点以上)・B(70点以上80点未満)・C(60点以上70点未満)・D(60点未満)とする。また授業態度が悪い、授業中の食事などがあった場合は減点、欠席扱いとすることがあります。		
使用テキスト	解剖学、生理学、病理学概論、臨床医学各論、臨床医学総論		
参考文献			

科目名	適応と鑑別		
担当教員	岩村英明・佐々木勇人	実務経験の有無及び経歴	鍼灸師として臨床現場に従事
対象学年	3年	開講学期	後期
単位数	講義 2単位	時間数	30時間
科目の概要	他の科目で学習した疾患・症候について過去に出題された問題等を参考に学習を進める。病態の把握ができる事により臨床力を高め、更に国試突破力養う。		
科目の目標	代表な疾患の病態生理を理解し、類似疾患との鑑別ができるようにする。より病態の把握ができるようにする。		
学習の到達目標	疾患それぞれの病態整理を理解し、特徴的な所見を理解し鍼灸の適応不適応を見極める能力を身に付ける。		
学習方法・学習上の注意	配布プリントを毎回持参すること。		
関連科目	西洋医学全般及び東洋医学科目		
持参物	教科書、ノート、筆記用具		
講義計画			
1・2	適応症・鑑別ⅠⅡ		
3・4	適応症・鑑別ⅢⅣ		
5	まとめ		
6・7	適応症・鑑別ⅤⅥ		
8・9	適応症・鑑別ⅦⅧ		
10・11	適応症・鑑別ⅨⅩ		
12・13	適応症・鑑別ⅪⅫ		
14	まとめ		
15	復習、考査		
成績評価の方法と基準	評価方法:試験80%、学習意欲(授業態度)10%、出席状況10% 評価基準:学則に従いA(80点以上)・B(70点以上80点未満)・C(60点以上70点未満)・D(60点未満)とする。		
使用テキスト	授業プリント		
参考文献	生理学(医歯薬出版株式会社)、解剖学(医歯薬出版株式会社)、病理学概論(医歯薬出版株式会社)他必要に応じてお知らせします。		

科目名	鍼灸理論Ⅰ		
担当教員	御書隆之	実務経験の有無及び経歴	鍼灸師として臨床現場に従事
対象学年	1年生	開講学期	前期
単位数	講義 1単位	時間数	15時間
科目の概要	鍼灸の歴史や、その施術で用いられる道具、また施術に際しての注意事項など		
科目の目標	鍼灸の道具の名称、扱い方、用法やその適用・禁忌を学び、今後の実習で実際に扱うための基礎を築く		
学習の到達目標	鍼灸を今後、安全・確実に行うにあたっての基礎を築くとともに、その内容を理解する。鍼灸の適用・禁忌のみならず過誤についての対処法を確実に覚える。		
学習方法・学習上の注意	毎時間プリントを配布し、プリントの記述に沿って授業を行う。欠席した場合、友人からプリントを借りるなどして、自分でしっかりフォローしておいて下さい。		
関連科目	鍼灸実技、東洋医学概論、経絡経穴概論、衛生学・公衆衛生学		
持参物			
講義計画	講義内容		
1	概論～鍼の名称		
2	刺鍼の方式		
3	特殊鍼法		
4	灸術の基礎～灸術の種類		
5	鍼灸の適応症～鍼療法の過誤		
6	鍼療法の過誤～灸療法の過誤		
7	感染症対策		
8	期末テスト		
成績評価の方法と基準	評価方法：試験80%、学習意欲（授業態度）10%、出席状況10% 評価基準：学則に従いA(80点以上)・B(70点以上80点未満)・C(60点以上70点未満)・D(60点未満)とする。試験結果を総合的にみて成績評価を行う。期末試験結果で60%未満の者には再試験を行う。また授業態度が悪い、授業中の食事などがあった場合は減点、欠席扱いとすることがあります。		
使用テキスト	はりきゅう理論：医道の日本社、配布プリント		
参考文献	はりきゅう実技：医道の日本社		

科目名	鍼灸理論Ⅱ		
担当教員	佐々木勇人	実務経験の有無及び経歴	鍼灸師として臨床現場に従事
対象学年	2年	開講学期	通年
単位数	講義 3単位	時間数	45時間
科目の概要	鍼灸の治療効果とそのメカニズムを学習する。		
科目の目標	治効・作用機序を、解剖・生理・病理を基礎として学習し理解する。		
学習の到達目標	国家試験のはり理論(10問)・きゅう理論(10問)と最も関わる重要で部分であるため、しっかりと学習し最低限の知識は習得する。		
学習方法・学習上の注意	根気よく学習を進める		
関連科目	解剖学・生理学・病理学		
持参物	教科書、ノート、筆記用具		
講義計画			
1	ガイダンス、1年時の復習Ⅰ		
2～3	1年時の復習Ⅱ		
4～5	1年時の復習Ⅲ		
6～7	1年時の復習Ⅳ		
8～9	鍼灸治効の基礎Ⅰ		
10～11	鍼灸治効の基礎Ⅱ		
13	鍼灸治効の基礎まとめ		
14	中間テスト		
15	鍼灸療法の一般治効理論Ⅰ		
16	鍼灸療法の一般治効理論Ⅱ		
17	鍼灸療法の一般治効理論Ⅲ		
18	鍼灸療法の一般治効理論Ⅳ		
19～20	関連学説Ⅰ		
21～22	関連学説Ⅱ		
23	総まとめ		
成績評価の方法と基準	評価方法：試験80%、学習意欲(授業態度)10%、出席状況10% 評価基準：学則に従いA(80点以上)・B(70点以上80点未満)・C(60点以上70点未満)・D(60点未満)とする。		
使用テキスト	『はりきゅう理論』医道の日本		
参考文献	『生理学』医師薬出版		

科目名	体表観察		
担当教員	御書隆之	実務経験の有無及び経歴	鍼灸師として臨床現場に従事
対象学年	2年生	開講学期	通年
単位数	実技 1単位	時間数	30時間
科目の概要	体表より触診することができるランドマークの実技学習を行う。また、解剖学的ランドマークの確認以外に、経穴の確認なども行う。		
科目の目標	身体の代表的な部位を体表解剖で理解し、部位名およびその部位がどこなのかを示すことができる。		
学習の到達目標	1. 下肢の代表的なランドマークを触察により適切に捉えることが出来るようになる。 2. 上肢の代表的なランドマークを触察により適切に捉えることが出来るようになる。 3. 体幹部の代表的なランドマークを触察により適切に捉えることが出来るようになる。		
学習方法・学習上の注意	教員のデモンストレーション後2人ないし3人1組となり、触察によりランドマークを確認し、実際に体表にマーカーなどでスケッチする。予習復習はしっかり。忘れ物をしないこと。		
関連科目	解剖学、経絡経穴概論		
持参物	教科書(解剖学、経絡経穴概論)、鍼灸道具一式、マーカー(水性)		
講義計画	講義内容		
1	オリエンテーション		
2～4	膝・下腿の体表解剖(骨・筋・経穴)		
5～7	上肢帯・上腕の体表解剖(骨・筋・経穴)		
8～10	前腕の体表解剖(骨・筋・経穴)		
11～13	体幹部の体表解剖(骨・筋・経穴)		
14	試験		
15	試験		
成績評価の方法と基準	評価方法:試験80%、学習意欲・授業態度(出席状況を含む)20% 評価基準:学則に従いA(80点以上)・B(70点以上80点未満)・C(60点以上70点未満)・D(60点未満)とする。		
使用テキスト			
参考文献			

科目名	症例検討		
担当教員	岩村英明・佐々木勇人	実務経験の有無及び経歴	鍼灸師として臨床現場に従事
対象学年	3年	開講学期	後期
単位数	講義 2単位	時間数	30時間
科目の概要	過去の症例問題等を読み込み臨床に必要な知識及び国家試験合格に必要な知識を身に付ける。		
科目の目標	代表疾患の病態を理解し、適不適の判断と類似疾患との鑑別ができるようにする。		
学習の到達目標	過去に出題された症例について十分な理解と知識を身につける。		
学習方法・学習上の注意	配布プリントを毎回持参すること。		
関連科目	西洋医学全般及び東洋医学科目		
持参物	教科書、ノート、筆記用具		
講義計画			
1・2	症例検討ⅠⅡ		
3・4	症例検討ⅢⅣ		
5	まとめ		
6・7	症例検討ⅤⅥ		
8・9	症例検討ⅦⅧ		
10・11	症例検討ⅨⅩ		
12・13	症例検討ⅪⅫ		
14	まとめ		
15	復習、考査		
成績評価の方法と基準	評価方法:試験80%、学習意欲(授業態度)10%、出席状況10% 評価基準:学則に従いA(80点以上)・B(70点以上80点未満)・C(60点以上70点未満)・D(60点未満)とする。		
使用テキスト	授業プリント		
参考文献	臨床医学各論(医歯薬出版株式会社)東洋医学臨床論(株式会社医道の日本社)他、必要に応じてお知らせします。		

科目名	伝統医学臨床論		
担当教員	大槻 健吾	実務経験の有無及び経歴	鍼灸あん摩マッサージ指圧師として医療現場に従事
対象学年	3年生	開講学期	通年
単位数	講義 4単位	時間数	60時間
科目の概要	伝統医学概論Ⅰ・Ⅱ、臨床医学総論、応用実技Ⅰ・Ⅱで学んだ基礎知識や診断方法を基に日本の鍼灸現場で多い疾患を中心に疾患の各論を学習する。		
科目の目標	各疾患が伝統医学の観点からどのような病理で起こっているかを理解し、その治療方針を学ぶ。		
学習の到達目標	患者が訴える症状からその病態を推測し、どの治療方針が最適であるかを決められるようにする。		
学習方法・学習上の注意	配布したプリントおよび伝統医学概論の基礎知識の復習		
関連科目	解剖学Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ、生理学Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ、伝統医学概論Ⅰ・Ⅱ、経絡経穴概論Ⅰ・Ⅱ、応用実技Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ・Ⅳ、臨床医学総論、臨床医学各論、臨床実習		
持参物			
講義計画	講義内容		
1～3	伝統医学概論復習		
4～5	徒手検査法復習		
5～6	徒手検査法		
7	治療原則		
8～9	治療法		
10～13	整形外科疾患の症候・症例		
13～16	不定愁訴の症候・症例		
17～19	胸部・腹部の症候・症例		
20～22	泌尿器・生殖器の症候・症例		
23～30	各種症候・症例の復習		
成績評価の方法と基準	評価方法：期末試験(70%)、授業内小テスト(20%)、授業態度(5%)、出席状況(5%) 評価基準：学則に従いA(80点以上)・B(70点以上80点未満)・C(60点以上70点未満)・D(60点未満)とする。		
使用テキスト	配布プリント		
参考文献	『東洋医学臨床論(はりきゅう編)』：東洋療法学校協会 『東洋医学概論』：東洋療法学校協会 『針灸学 基礎編』：東洋学術出版社 『針灸学 臨床篇』：東洋学術出版社 『図説 東洋医学 基礎編』：株式会社 学習研究社 など		

科目名	文献閱讀		
担当教員	渡邊 真弓	実務経験の有無及び経歴	鍼灸あん摩マッサージ指圧師として医療現場に従事
対象学年	2年	開講学期	前期
単位数	講義 1単位	時間数	15時間
科目の概要	現代医学と伝統医学(鍼灸など)の最大の差は、後者は(中国)哲学に立脚する点である。それ故、東アジア文化圏独特の哲学に親しむべく現代中国文献を中心として閲読をおこなう。教養として、中国の歴史・地理も学ぶ。		
科目の目標	中国古典・現代中国語は外国語であり、その構造は日本語よりもむしろ英語に近い。文章嫌いにならず、辞書を使って自分なりに読み解く能力を身につける。時間に余裕があれば中英を比較する。		
学習の到達目標	漢和辞典・中国語の辞書などを使い、外国語文献の大意を把握できる。		
学習方法・学習上の注意	辞書を忘れないように		
関連科目	中国語		
持参物	中日辞典など		
講義計画	講義内容		
1	中国語辞典の使い方・気虚について・文化素養1		
2	中国語辞典の使い方・血虚について・文化素養2		
3	陽虚・陰虚について・文化素養3		
4	臓腑弁証について・文化素養4		
5	臓腑間弁証について・文化素養5		
6	日本文献について		
7	長文中国語文献		
8	まとめ・テスト		
成績評価の方法と基準	平常点40%、口頭試問(小テストを含む)30%、試験30%		
使用テキスト	王財源著「わかりやすい 臨床中医実践弁証トレーニング 第2版」・プリント		
参考文献	「わかりやすい臨床中医診断学第2版」「わかりやすい臨床中医臓腑学第3版」		

科目名	文献閱讀		
担当教員	佐々木勇人	実務経験の有無及び経歴	鍼灸師として臨床現場に従事
対象学年	1年	開講学期	前期
単位数	講義 1単位	時間数	15時間
科目の概要	鍼灸学校や鍼灸の教育制度、最低限の法規、世界の現状、学会の現状を客観的に学習する。		
科目の目標	日本の鍼灸業界、世界の鍼灸業界、鍼灸と親和性の高い柔道整復業界などの現状を学ぶ。また、情報収集の方法についても学ぶ。		
学習の到達目標	業界について鍼灸師以外の人に説明できるようになる。また、書籍や雑誌などから情報収集できるようになる。		
学習方法・学習上の注意			
関連科目	関係法規		
持参物	中日辞典など		
講義計画	講義内容		
1	鍼灸の資格・法律Ⅰ		
2	鍼灸の資格・法律Ⅱ		
3	鍼灸の資格・法律Ⅱ、保険制度		
4	保険制度、柔道整復業界の現状・制度		
5	鍼灸の教育制度、海外の現状		
6	海外の現状、鍼灸学会・業団体		
7	まとめ、レポート課題について		
8	レポート作成		
成績評価の方法と基準	レポート評価(90%)、授業態度・出席状況(10%)		
使用テキスト	プリントを配布する		
参考文献	医道の日本		

科目名	伝統医学史		
担当教員	渡邊 真弓	実務経験の有無及び経歴	
対象学年	3年生	開講学期	前期
単位数	講義 1単位	時間数	15時間
科目の概要	現在行われている鍼灸が過去におけるどのような理論や技術に基づいているのか、中国と日本のあはきの歴史の変遷について学習する。		
科目の目標	あはきの歴史を学ぶことで当時の鍼灸を行っていた人たちの心持ちを認識し、鍼灸についての正しい知識・理解を得る。		
学習の到達目標	在学時はもちろん、資格取得後、臨床の場面において患者様は地域の人々の質問に自信をもって対応できる知識を養う。		
学習方法・学習上の注意	漢字や専門用語が多いですが、教養溢れる鍼灸師になるため慣れましょう。		
関連科目	文献読読、鍼灸理論		
持参物	文献読読同様、辞書をお持ちください。		
講義計画	講義内容		
1	あはきの歴史 中国編(1)		
2	あはきの歴史 中国編(2)		
3	あはきの歴史 中国編(3)		
4	あはきの歴史 中国編(4)		
5	あはきの歴史 中国編(5)		
6	あはきの歴史 日本編(1)		
7	あはきの歴史 日本編(2)		
8	あはきの歴史 まとめ		
成績評価の方法と基準	評価方法: 期末試験(80%)、授業態度(10%)、出席状況(10%) 評価基準: 学則に従いA(80点以上)・B(70点以上80点未満)・C(60点以上70点未満)・D(60点未満)とする。		
使用テキスト	文献読読の王財源先生の本の一部を使用します。それ以外の資料は随時用意する。		
参考文献	随時、紹介する。		

科目名	就職実務		
担当教員	岩村 英明	実務経験の有無及び経歴	
対象学年	2年生	開講学期	後期
単位数	講義 1単位	時間数	15時間
科目の概要	求職登録の仕方、ビジネスマナーの習得、就職活動への流れを理解する。		
科目の目標	求職登録		
学習の到達目標	求職登録をし、就職活動を円滑に行えるようになる		
学習方法・学習上の注意	自分の考えをアウト・プットし、より明確にしていく。他の人の話を聴く傾聴の訓練と意識する。		
関連科目			
持参物	iPad、筆記試験		
講義計画	講義内容		
1	就職活動の流れ		
2	ビジネスマナー		
3	志望動機を考える		
4	自己PRを考える		
5	理想の鍼灸師像を考える		
6	履歴書を書いてみる		
7	模擬面接		
8	求職登録面接		
成績評価の方法と基準	授業内のそれぞれのテーマごとに対して評価(40点)、模擬面接60点の100点満点で評価する。授業態度、出席を加味(欠席:減点3、遅刻:減点1)60点未満は再試験を実施。		
使用テキスト			
参考文献	マイナビHP https://job.mynavi.jp/ ビジネス文書&マナー大事典 学研		

科目名	医学補完 I		
担当教員	専任教員で分担	実務経験の有無及び経歴	
対象学年	1年生	開講学期	通年
単位数	講義 2単位	時間数	30時間
科目の概要	オリエンテーションおよび解剖学・生理学・伝統医学概論・経絡経穴概論など各科目の補完として講義を行う		
科目の目標	モチベーションを高めるとともに、1年次の科目の補完を行い、知識を定着させる		
学習の到達目標	各科目の重要ポイントをおさえる 違う科目であっても共通する分野の知識を関連付ける		
学習方法・学習上の注意	1年次の各科目の復習をしっかりと行う		
関連科目	解剖学、生理学、伝統医学概論、経絡経穴概論		
持参物	教科書		
講義計画	講義内容		
1～4	オリエンテーション		
5～8	解剖学		
9～11	生理学		
12～13	伝統医学概論		
14～15	経絡経穴概論		
成績評価の方法と基準	評価方法:レポート及び提出物(60%)、授業態度(20%)、出席状況(20%) 評価基準:学則に従いA(80点以上)・B(70点以上80点未満)・C(60点以上70点未満)・D(60点未満)とする。		
使用テキスト	解剖学:医歯薬出版株式会社 生理学:医歯薬出版株式会社 新版 東洋医学概論:医道の日本社 新版 経絡経穴概論:医道の日本社		
参考文献			

科目名	医学補完Ⅱ		
担当教員	専任教員	実務経験の有無及び経歴	
対象学年	2年	開講学期	通年
単位数	講義 1単位	時間数	15時間
科目の概要	オリエンテーションおよび、東洋医学、西洋医学各科目の補完として講義を行う		
科目の目標	1年次の復習と2年次の科目の補完を行い、知識を定着させる		
学習の到達目標	各科目の重要項目の確認と知識の定着		
学習方法・学習上の注意	各授業の復習をしっかりと行う		
関連科目	解剖学・生理学・伝統医学概論・経絡経穴概論・運動学・病理学・臨床医学総論・臨床医学各論・リハビリテーション医学・鍼灸理論		
持参物	教科書		
講義計画	講義内容		
1	オリエンテーション		
2～4	専門基礎分野及び専門分野の補完(東洋医学系科目)		
5～8	専門基礎分野及び専門分野の補完(西洋医学系科目)		
成績評価の方法と基準	評価方法:レポート及び提出物(60%)、授業態度(20%)、出席状況(20%) 評価基準:学則に従いA(80点以上)・B(70点以上80点未満)・C(60点以上70点未満)・D(60点未満)とする。		
使用テキスト	配布プリント及び各科目教科書(事前に指示する)		
参考文献	解剖学(医歯薬出版株式会社)・生理学(医歯薬出版株式会社)・東洋医学概論(株式会社医道の日本)・経絡経穴概論(株式会社医道の日本)・運動学(医歯薬出版株式会社)・病理学(医歯薬出版株式会社)・臨床医学総論(医歯薬出版株式会社)・臨床医学各論(医歯薬出版株式会社)・リハビリテーション医学(医歯薬出版株式会社)・鍼灸理論(株式会社医道の日本)		

科目名	医学補完Ⅲ		
担当教員	専任教員	実務経験の有無及び経歴	
対象学年	3年	開講学期	通年
単位数	講義 1単位	時間数	90時間
科目の概要	国家試験主要科目の復習を行う。		
科目の目標	国試頻出範囲の復習を行い、確実な知識の習得を目指す。		
学習の到達目標	国家試験主要科目における、知識定着。		
学習方法・学習上の注意	体調管理をしっかりとし、授業に出席する。苦手科目の者は克服するように、得意科目の者はより得点率を上げられるように復習をしっかりと行う。		
関連科目	経絡経穴概論・解剖学・生理学・伝統医学概論		
持参物	筆記用具・必要に応じて教科書や配布プリント等		
講義計画	講義内容		
1～2	オリエンテーション(国家試験合格に向け自己分析、目標設定 等)		
3～8	国家試験対策		
成績評価の方法と基準	評価方法:レポート・課題提出60%、出席率20%、授業態度20%で評価する。 評価基準:学則により、A(80点以上)、B(70～79点)、C(60～69点)、D(59点以下)とする。		
使用テキスト	経絡経穴概論(医道の日本社) 解剖学第2版(医歯薬出版) 生理学第3版(医歯薬出版) 新版東洋医学概論(医道の日本社)		
参考文献			

科目名	特別授業Ⅰ		
担当教員	専任教員	実務経験の有無及び経歴	
対象学年	3年生	開講学期	前期
単位数	講義 4単位	時間数	60時間
科目の概要	3年次における国家試験対策を主とする。全科目を横断的に学習し、3学年に渡る学習の総まとめとする。 特別授業Ⅰでは基礎科目対策を主とする。		
科目の目標	基礎科目知識を定着させ、他科目知識の理解と定着へとつなげる。		
学習の到達目標	各科目の重要ポイントをおさえる。 違う科目であっても共通する分野の知識を関連付ける。		
学習方法・学習上の注意	国家試験対策という事もあり、基本的には過去に行った内容の復習になるので、授業が円滑に進むようにしっかりと復習をしておく。		
関連科目	解剖学、生理学、伝統医学概論、経絡経穴概論、鍼灸理論		
持参物			
講義計画	講義内容		
1～30	●国家試験対策 ・岩村7コマ ・本間5コマ ・大槻4コマ ・御書4コマ ・佐々木5コマ ・角田5コマ		
成績評価の方法と基準	評価方法: 期末試験(80%)、授業態度(10%)、出席状況(10%) 評価基準: 学則に従いA(80点以上)・B(70点以上80点未満)・C(60点以上70点未満)・D(60点未満)とする。		
使用テキスト	解剖学: 医歯薬出版株式会社 生理学: 医歯薬出版株式会社 新版 東洋医学概論: 医道の日本社 新版 経絡経穴概論: 医道の日本社 はりきゅう理論: 医道の日本社		
参考文献			

科目名	対策授業Ⅱ		
担当教員	専任教員	実務経験の有無及び経歴	
対象学年	3年	開講学期	後期
単位数	講義 5単位	時間数	75時間
科目の概要	3年次における国家試験対策を主とする。全科目を横断的に学習し、3学年に渡る学習の総まとめとする。特別授業Ⅱでは臨床医学の科目対策を主とする。		
科目の目標	特別授業Ⅰで定着させた基礎科目知識をもとに、臨床医学における病態や所見について関連付けによる知識定着を図る。		
学習の到達目標	各科目の重要ポイントをおさえる。 違う科目であっても共通する分野の知識を関連付ける。		
学習方法・学習上の注意	国家試験対策という事もあり、基本的には過去に行った内容の復習になるので、授業が円滑に進むようにしっかりと復習をしておく。その日、扱った範囲に復習を都度行うこと。		
関連科目	臨床医学総論、臨床医学各論Ⅰ、臨床医学各論Ⅱ、臨床医学各論Ⅲ、リハビリテーション医学、伝統医学臨床論、公衆衛生学、病理学概論		
持参物	筆記用具、配布プリント		
講義計画	講義内容		
1～38	●国家試験対策 ・岩村6コマ ・本間6コマ ・大槻6コマ ・御書8コマ ・佐々木6コマ ・角田6コマ		
成績評価の方法と基準	評価方法：期末試験(80%)、授業態度(10%)、出席状況(10%) 評価基準：学則に従いA(80点以上)・B(70点以上80点未満)・C(60点以上70点未満)・D(60点未満)とする。		
使用テキスト			
参考文献			

科目名	総合実技		
担当教員	専任教員	実務経験の有無及び経歴	
対象学年	3年	開講学期	後期
単位数	実技 1単位	時間数	30時間
科目の概要	3年間学んできた各実技科目の知識・技術の統合を行う。		
科目の目標	経絡経穴実技や解剖学、体表観察で学んだことを統合させ、人体を多角的に見ることが出来るようにする。		
学習の到達目標	主要経穴の取穴位置を覚える。またその経穴の局所解剖について覚える。		
学習方法・学習上の注意	体表に経穴の位置や筋肉・神経走行などを描き、それらを立体的に考え、覚える。		
関連科目	経絡経穴概論、経絡経穴実技Ⅰ、経絡経穴実技Ⅱ、解剖学Ⅲ、体表観察		
持参物			
講義計画	講義内容		
1～5	下肢の取穴及び体表解剖		
6～10	上肢の取穴及び体表解剖		
11～15	体幹部の取穴及び体表解剖		
成績評価の方法と基準	評価方法: レポート及び提出物60%、出席率20%、授業態度20%で評価する。 評価基準: 学則により、A(80点以上)、B(70～79点)、C(60～69点)、D(59点以下)とする。		
使用テキスト			
参考文献	新版 経絡経穴概論(医道の日本社) 解剖学 第2版(医歯薬出版株式会社)		

科目名	総合医学演習		
担当教員	専任教員	実務経験の有無及び経歴	
対象学年	3年	開講学期	後期
単位数	演習 1単位	時間数	30時間
科目の概要	症例報告や問題演習等、3年間で学んできた知識の統合と演習を行う。 演習科目の為、知識の確認と修正を中心とする。		
科目の目標	専門知識が定着している事を確認し応用できるようにする。		
学習の到達目標	各科目の基礎知識が身についている。 専門知識が定着しており、演習に活かすことができる。		
学習方法・学習上の注意	配布プリントを毎回持参すること。		
関連科目	各専門基礎分野及び専門分野		
持参物	配布プリント、ノート、筆記用具		
講義計画	講義内容		
1	導入		
2	演習Ⅰ		
3	演習Ⅱ		
4	演習Ⅲ		
5	演習Ⅳ		
6	演習Ⅴ		
7	まとめと復習		
8	確認とフィードバック		
9	演習Ⅵ		
10	演習Ⅶ		
11	演習Ⅷ		
12	演習Ⅸ		
13	演習Ⅹ		
14	まとめと復習		
15	考査		
成績評価の方法と基準	評価方法: 試験80%、学習意欲(授業態度)10%、出席状況10% 評価基準: 学則に従いA(80点以上)・B(70点以上80点未満)・ C(60点以上70点未満)・D(60点未満)とする。		
使用テキスト	授業プリント		
参考文献	生理学(医歯薬出版株式会社)、解剖学(医歯薬出版株式会社)、臨床医学各論(医歯薬出版株式会社)、東洋医学臨床論(株式会社 医道の日本社)、経絡経穴概論(株式会社 医道の日本社)		

科目名	鍼灸実技 I		
担当教員	大槻 健吾、御書 隆之、岩村 英明	実務経験の有無及び経歴	鍼灸師として臨床現場に従事
対象学年	1年	開講学期	通年
単位数	実技 5単位	時間数	150時間
科目の概要	大槻：施術者としての心構え、身だしなみ、消毒法を含めた衛生上の注意点。 基本的な刺鍼方法、施灸方法。（講義計画1～30） 御書：各ランドマークを正確にとる。（講義計画31～40） 岩村：四肢の経穴の取穴及び刺鍼・施灸練習を行う。（講義計画41～75）		
科目の目標	消毒法から、施鍼・施灸までの各動作を身体で覚え動けるようにする。 また各施術を安全に効率的かつ適度な刺激を加えられるようする。		
学習の到達目標	身だしなみチェック表、衛生チェック表を用いて常に清潔な状態を保つことができる。 各ランドマークの位置及び経穴の取穴位置を覚える。 狙った刺入角度・深度通り、スムーズに刺鍼することが出来る。 適切な刺激強度でスムーズに施灸することが出来る。		
学習方法・学習上の注意	人体に対する施術が主となるので、内出血や火傷などのリスク管理に注意する。		
関連科目	鍼灸理論、経絡経穴概論、経絡経穴実技、解剖学、生理学、 伝統医学概論、臨床基礎実習、臨床実習		
持参物			
講義計画	講義内容		
1	道具の確認および使い方、身だしなみ、衛生チェック		
2	管鍼法、刺鍼練習（直刺）、挿管法		
3	艾の捻り方、線香の持ち方、点火方法		
4	刺鍼練習（直刺、斜刺、横刺）		
5	施灸練習（紙、竹）		
6	十七手技、人体刺鍼		
7	施灸練習（紙、竹）		
8	十七手技、撚鍼法		
9	施灸練習（紙、竹、人体）		
10	経過チェック		
11～20	刺鍼練習、施灸練習		
21	経過チェック		
22	温灸（棒灸、隔物灸）		
23～26	刺鍼練習、施灸練習		
27～28	経過チェック		
29～30	刺鍼、施灸の復習		
31	上肢－三陰経・三陽経ランドマーク（骨指標）		
32～33	上肢－三陰経・三陽経ランドマーク		
34	体幹部ランドマーク（骨指標）		
35	体幹部・頭部ランドマーク		
36	下肢－三陰経・三陽経ランドマーク（骨指標）		
37～38	下肢－三陰経・三陽経ランドマーク		
39	復習		
40	経過チェック		

41	オリエンテーション
42～43	取穴・刺鍼・施灸練習（犢鼻・足三里・豊隆）
44～45	取穴・刺鍼・施灸練習（陽陵泉・懸鐘・中都）
46～47	取穴・刺鍼・施灸練習（三陰交・築賓）
48～49	取穴・刺鍼・施灸練習（陰陵泉・地機）
50～51	取穴・刺鍼・施灸練習（血海・梁丘）
52～53	取穴・刺鍼・施灸練習（委中・承山・崑崙）
54～55	取穴・刺鍼・施灸練習（公孫・太衝・足臨泣）
56	復習
57～58	経過チェック
59～60	取穴・刺鍼・施灸練習（尺沢・曲沢）
61～62	取穴・刺鍼・施灸練習（曲池・手三里）
63～64	取穴・刺鍼・施灸練習（陽溪・偏歷）
65～66	取穴・刺鍼・施灸練習（陽池・外関）
67～68	取穴・刺鍼・施灸練習（内関・郄門）
69～70	取穴・刺鍼・施灸練習（太淵・神門）
71～72	取穴・刺鍼・施灸練習（合谷・魚際）
73	復習
74～75	期末試験
成績評価の方法と基準	評価方法：期末試験80%、学習意欲（授業態度）10%、出席状況10% 評価基準：学則に従いA（80点以上）・B(70点以上80点未満)・ C（60点以上70点未満）・D（60点未満）とする。
使用テキスト	教科書（はりきゅう実技＜基礎編＞、経絡経穴概論）
参考文献	経穴インパクト（株式会社医道の日本社） 運動・からだ図解 経絡・ツボの基本（株式会社マイナビ） はり入門（株式会社医道の日本社）

科目名	鍼灸実技Ⅱ		
担当教員	岩村 英明、角田 朋之、大槻 健吾	実務経験の有無及び経歴	鍼灸師として臨床現場に従事
対象学年	1年	開講学期	通年
単位数	実技 5単位	時間数	150時間
科目の概要	岩村：頭頸部や体幹部の経穴に対し刺鍼・施灸の練習を行なう。また1年次に行った四肢への刺鍼・施灸練習も行う。（講義計画1～30） 角田：四肢や体幹部の経穴に対し中国鍼の刺鍼・灸頭鍼の練習を行なう。（講義計画31～40） 大槻：1年時に修得した刺鍼技術を用いて低周波鍼通電療法を筋肉に対して行う。（講義計画41～75）		
科目の目標	1年次で学んだ基本技術を円滑に行えるようにし、かつ、その他の施術方法を学ぶことで3年次の臨床実習の現場に立つことが出来るようにする。		
学習の到達目標	1. 頭部や体幹部に対し、安全に刺鍼・施灸が行えるようになる。また、一年次に行った上下肢に対する刺鍼・施灸も引き続き安全に行えるようにする。 2. 四肢や体幹部に対し、安全に中国鍼の刺鍼・灸頭鍼が行えるようになる。 3. 上下肢筋の起始・停止・作用・支配神経、低周波鍼通電療法の作用・禁忌を覚える。 4. 基本的な刺鍼技術を向上させ、低周波鍼通電療法を安全に行えるようにする。		
学習方法・学習上の注意	危険部位に対する刺鍼を安全に行えるようにする。体幹部への刺鍼は気胸の恐れがあるため注意する。		
関連科目	鍼灸理論、経絡経穴概論、経絡経穴実技、解剖学、生理学、 伝統医学概論、臨床基礎実習、臨床実習		
持参物	タブレット端末、教科書（経絡経穴概論）、鍼灸道具一式、筆記用具、クリップボード		
講義計画	講義内容		
1	導入、頸部の刺鍼（完骨、翳風）		
2	頸部の刺鍼（風池、天柱）		
3～4	肩部の刺鍼、施灸（肩井、天膠、巨骨）		
5～6	肩部の刺鍼、施灸（肩貞、天宗、秉風）		
7～8	上下肢の刺鍼、施灸（合谷、足三里、太衝、三陰交）		
9～10	背部の刺鍼、施灸（風門、肺俞、心俞）		
11～12	背部の刺鍼、施灸（膈俞、肝俞、脾俞）		
13～14	上下肢の刺鍼、施灸（陽陵泉、陰陵泉、内関、公孫）		
15～16	腰部の刺鍼、施灸（腎俞、命門、志室）		
17～18	腰部の刺鍼、施灸（腰陽関、大腸俞）		
19～20	胸腹部の刺鍼、施灸（中府、天枢）		
21～22	腹部の刺鍼、施灸（巨関、中脘、関元）		
23～24	腹部の刺鍼、施灸（梁門、章門）		
25	顔面部の刺鍼（下関、攢竹、聴会、四白）		
26	頭部の刺鍼（百会、頭維、額会、正営）		
27～28	復習		
29	経過チェック（刺鍼）		
30	経過チェック（施灸）		

31	下肢の灸頭鍼（足三里、豊隆）
32	下肢の刺鍼（飛揚、跗陽）
33	上肢の灸頭鍼（外関、会宗）
34	上肢の刺鍼（列欠、孔最）
35	腰部の灸頭鍼（腎兪、大腸兪）
36	腹部の刺鍼（関元、中脘、天枢）
37	腹部の灸頭鍼（関元、中脘、天枢）
38	復習
39	経過チェック（中国鍼）
40	経過チェック（灸頭鍼）
41	オリエンテーション（パルス療法の導入）
42～43	上腕部の屈筋・伸筋に対するパルス療法
44	前腕部の伸筋群に対するパルス療法
45	前腕部の屈筋群に対するパルス療法
46～47	上肢の屈筋・伸筋に対するパルス療法
48～49	大腿部の屈筋・伸筋に対するパルス療法
50～51	下腿部の屈筋・伸筋に対するパルス療法
52～53	下肢の屈筋・伸筋に対するパルス療法
54～55	上肢・下肢の筋に対するパルス療法復習
56～57	中間チェック（上肢のパルス）
58～60	腰部の筋に対するパルス療法
61～63	肩背部の筋に対するパルス療法
64～72	上肢・下肢に対するパルス療法の復習
73～74	期末試験
75	まとめ
成績評価の方法と基準	評価方法：実技試験70%、小テスト10%、授業態度10%、出席状況10% 評価基準：学則に従いA（80点以上）・B(70点以上80点未満)・C（60点以上70点未満）・D（60点未満）とする。
使用テキスト	鍼灸実技〈基礎編〉、経絡経穴概論、配布プリント
参考文献	経穴インバクト（株式会社医道の日本社） 運動・からだ図解 経絡・ツボの基本（株式会社マイナビ） はり入門（株式会社医道の日本社） 『鍼灸療法技術ガイド』（文光堂）

科目名	経絡経穴実技Ⅰ		
担当教員	佐藤 徳昭	実務経験の有無及び経歴	鍼灸あん摩マッサージ指圧師として臨床現場に従事
対象学年	1年	開講学期	後期
単位数	実技 1単位	時間数	30時間
科目の概要	経絡経穴概論の学習と合わせながら、その部位の確認を行う。特に解剖学で学習した人体のランドマーク部位を具体的に触れながら、取穴位置の確認を行う。		
科目の目標	経絡経穴概論では十四経脈を各経脈ごとで学ぶが、本科目では要穴が多く存在する前腕と下腿の三陰・三陽経を中心に、複数の経脈を同時に取穴する。そこから同じ高さにある経穴や、経脈の位置関係などを体感することで知識を定着させる。		
学習の到達目標	臨床では一つの経脈のみの使用では治療が成立しにくい。従って、本科目を通じて複数の経脈を同時に使えるようにする。		
学習方法・学習上の注意	三陰・三陽経の走行部位を、蛍光ペンで人体に書いてみて位置関係を理解する。		
関連科目	①経絡経穴概論:この科目を基礎とする ②実技各種:病態に応じた選穴をし、そこに施術するためには、その経穴を取るための知識・技術が必要となる		
持参物	配布プリント。3色以上の蛍光ペン。5mmのカラーシール		
講義計画	講義内容		
1	背部－督脈(八髎穴)と奇穴の取穴		
2～4	背部－督脈・膀胱経・小腸経の取穴		
5～6	腹部－任脈・胃経・腎経・脾経の取穴		
7～8	前腕－三陰経・三陽経の取穴		
9～10	下腿－三陰経・三陽経の取穴		
11～14	前腕と下腿－三陰経・三陽経の取穴		
15	実技試験		
成績評価の方法と基準	評価方法:実技試験80%、学習意欲(出席状況を含む)20% 評価基準:学則に従いA(80点以上)・B(70点以上80点未満)・C(60点以上70点未満)・D(60点未満)とする。		
使用テキスト	『新版 経絡経穴概論』:東洋療法学校協会		
参考文献			

科目名	経絡経穴実技Ⅱ		
担当教員	佐藤 徳昭	実務経験の有無及び経歴	鍼灸あん摩マッサージ指圧師として臨床現場に従事
対象学年	2年	開講学期	後期
単位数	実技 1単位	時間数	30時間
科目の概要	これまでに学んできた経絡経穴学の集大成。		
科目の目標	経絡経穴概論で学んできた経穴を、スムーズに、かつ正確に取穴できるようにする。		
学習の到達目標	正穴や奇穴、または特殊な経穴の組合せ(難経六十九難など)を熟知した上で、臨床の現場で活用できるようにする。		
学習方法・学習上の注意	経絡経穴実技Ⅰの復習から始まり、経絡経穴概論で学んだ経穴を各部位ごとに別けて取穴していく。		
関連科目	①経絡経穴概論:この科目を基礎とする ②実技各種:病態に応じた選穴をし、そこに施術するためには、その経穴を取るための知識・技術が必要となる		
持参物	配布プリント。3色以上の蛍光ペン。5mmのカラーシール		
講義計画	講義内容		
1	前腕－三陰経の取穴(奇穴を除く)		
2	前腕－三陽経の取穴(奇穴を除く)		
3	下腿－三陰経の取穴(奇穴を除く)		
4	下腿－三陽経の取穴(奇穴を除く)		
5～6	背部－督脈・膀胱経・小腸経・奇穴の取穴		
7	腹部－任脈・胃経・脾経・腎経・奇穴の取穴		
8～9	①頭部の正穴の取穴(督脈・前額部横並びの穴の復習) ②顔面部の正穴の取穴 ③頸部の正穴の取穴 ④頭頸部、上肢部、下肢部の奇穴の取穴		
10～13	①難経六十九難 ②八会穴 ③四総穴 ④下合穴 ⑤八脈交会穴 ⑥奇穴		
14	実技試験		
15	取穴実技とポイントおよび解説		
成績評価の方法と基準	評価方法:実技試験80%、学習意欲(出席状況を含む)20% 評価基準:学則に従いA(80点以上)・B(70点以上80点未満)・C(60点以上70点未満)・D(60点未満)とする。		
使用テキスト	『新版 経絡経穴概論』:東洋療法学校協会		
参考文献			

科目名	手技実技Ⅰ		
担当教員	大槻健吾	実務経験の有無及び経歴	鍼灸あん摩マッサージ指圧師として臨床現場に従事
対象学年	1年生	開講学期	後期
単位数	実技1単位	時間数	30時間
科目の概要	マッサージやあん摩の基礎理論の学習と鍼灸施術する際の基本的な筋肉の触診、および経絡(または経穴)などについて、徒手手技を通して学習する。またここでの学習を通し施術ができる手指のトレーニングをしていく。		
科目の目標	筋肉の触り方と同時に、その部位に存在する経絡を意識することで、鍼灸臨床の一助となるようにする。		
学習の到達目標	他人の体への触り方に慣れる。基本手技を反復練習することで施術に必要な手指の感覚と持久力を養い、身体全体の施術をバランスよくできるようにする。		
学習方法・学習上の注意	手技を施す際の姿勢、力の入れ具合に注意する。 また、筋や経絡の位置の理解を深める。 適宜小テストを行うため解剖学、経絡経穴概論の復習・予習を行うこと		
関連科目	各種実技、解剖学、経絡経穴概論		
持参物	配布プリント、手拭いまたはタオル		
講義計画	講義内容		
1	オリエンテーション		
2	基本手技（軽擦法、揉捏法）		
3	基本手技（圧迫法、叩打法）		
4	基本手技（振せん法、曲手）		
5	基本手技（復習）		
6	背部指圧①		
7	背部指圧②		
8	上肢あん摩①		
9	上肢あん摩②		
10	下肢マッサージ①		
11	下肢マッサージ②		
12	吸角療法		
13	実技復習		
14	期末試験（前半）		
15	期末試験（後半）		
成績評価の方法と基準	評価方法：実技試験70%、小テスト10%、授業態度10%、出席状況10% 評価基準：学則に従いA(80点以上)・B(70点以上80点未満)・C(60点以上70点未満)・D(60点未満)とする。		
使用テキスト	プリント		
参考文献	『あん摩マッサージ指圧実技』(基礎編)：東洋療法学校協会		

科目名	手技実技Ⅱ		
担当教員	大槻 健吾	実務経験の有無及び経歴	鍼灸あん摩マッサージ指圧師として臨床現場に従事
対象学年	2年生	開講学期	後期
単位数	実技 1単位	時間数	30時間
科目の概要	鍼灸施術する際の基本的な筋肉の触診、および経絡(または経穴)などについて、徒手手技を通して学習する。またここでの学習を通し施術ができる手指のトレーニングをしていく。		
科目の目標	筋肉の触り方と同時に、その部位に存在する経絡を意識する事で、鍼灸臨床の一助となるようにする。		
学習の到達目標	他人の体への触り方に慣れる。基本手技を反復練習することで施術に必要な手指の感覚と持久力を養い、身体全体の施術をバランスよくできるようにする。		
学習方法・学習上の注意	手技を施す際の姿勢・力の入れ具合に注意する。また、筋や経絡の位置の理解を深める。		
関連科目	解剖学・経絡経穴概論・鍼灸実技・臨床実習		
持参物	配布プリント・筆記用具		
講義計画	講義内容		
1	オリエンテーション・基本手技の確認		
2～5	背部・上肢・下肢に対する手技・経絡・経穴の確認		
6～7	フェイスマッサージ		
8～9	リフレクソロジー		
10～11	トリガーポイント		
12～13	モビライゼーション		
14	まとめ		
15	期末試験		
成績評価の方法と基準	評価方法:実技試験(80%)、授業態度(10%)、出席状況(10%) 評価基準:学則に従いA(80点以上)・B(70点以上80点未満)・C(60点以上70点未満)・D(60点未満)とする。		
使用テキスト	配布プリント		
参考文献	『あんまマッサージ指圧理論』:東洋療法学校協会 『鍼療法図鑑普及版』:ガイアブックス 『ノンスラストによる関節モビライゼーション』:緑書房		

科目名	美容スポーツ各種鍼灸		
担当教員	大槻 健吾、角田 朋之、御書 隆之	実務経験の有無及び経歴	鍼灸師として臨床現場に従事
対象学年	3年	開講学期	後期
単位数	実技 1単位	時間数	30時間
科目の概要	鍼灸における専門分野の治療法や業界について学ぶ。		
科目の目標	各分野の治療方法や病態把握の仕方など、同じ鍼灸という領域の中での専門性を知る。		
学習の到達目標	各専門分野の治療法を知り、体験する。		
学習方法・学習上の注意	専門分野のため、使用器具等の扱いに注意し安全に実習を行う。		
関連科目			
持参物	実技道具一式(学校配布のもの)・必要に応じて患部を出せるような服装		
講義計画	講義内容		
1～4	美容鍼灸		
5～6	不妊鍼灸		
7～8	開業鍼灸		
9～10	高齢者鍼灸		
11～15	スポーツ鍼灸		
16	箱灸		
17	皮内鍼		
18	月経困難		
19	逆子		
20	高血圧		
21	排尿障害		
22	特殊鍼灸(頭鍼)		
23	特殊鍼灸(手指鍼)		
24	特殊鍼灸(夢分流)		
25	特殊鍼灸(古代九鍼)		
26	特殊鍼灸(古代九鍼)		
27	特殊鍼灸(古代九鍼)		
28	経筋治療		
29	経筋治療		
30	評価点検・復習		
成績評価の方法と基準	評価方法:授業態度20%、出席率80%にて総合的に評価をする。 評価基準:学則に基づき、A(80点以上)・B(70点以上80点未満)・C(60点以上70点未満)・D(60点未満)とする。		
使用テキスト	なし		
参考文献	なし		

※授業の進行状況により、内容を変更する場合があります。

科目名	現代鍼灸検査実技		
担当教員	角田朋之	実務経験の有無及び経歴	鍼灸師として臨床現場に従事
対象学年	2年	開講学期	後期
単位数	実技 1単位	時間数	30時間
科目の概要	病態把握のために必要な身体診察及び理学検査について学ぶ。		
科目の目標	身体診察および理学検査の臨床意義や陽性所見を理解し、行えるようにする。		
学習の到達目標	3年次の臨床実習にむけて、医療面接および身体診察から病態把握ができる基礎を身につける。		
学習方法・学習上の注意	3年次の臨床実習にむけて、医療面接および身体診察から病態把握ができる基礎を身につける		
関連科目	臨床医学総論、臨床医学各論、リハビリテーション医学、臨床実習、応用実技Ⅲ		
持参物	筆記用具、配布プリント		
講義計画	講義内容		
1	オリエンテーション／頸部の診察法		
2	肩関節の診察法①		
3	肩関節の診察法②		
4	上肢深部腱反射、頸肩腕痛の診察法		
5	肘・前腕痛の診察法		
6	復習		
7	腰痛・腰下肢の診察、股関節痛の診察、下肢深部腱反射①		
8	腰痛・腰下肢の診察、股関節痛の診察、下肢深部腱反射②		
9	膝関節痛の診察①		
10	膝関節痛の診察②		
11	脳神経の診察		
12	病的反射、髄膜刺激症状の検査、運動失調の検査		
13～15	復習		
成績評価の方法と基準	評価方法：実技試験80%、学習意欲（授業態度）10%、出席状況10% 評価基準：学則に従いA(80点以上)・B(70点以上80点未満)・C(60点以上70点未満)・D(60点未満)とする。		
使用テキスト	関連科目教科書、配布プリント		
参考文献	鍼灸療法技術ガイドⅠ 文光堂 徒手検査インパクト 医道の日本社		

科目名	伝統鍼灸診察実技		
担当教員	佐々木勇人	実務経験の有無及び経歴	鍼灸師として臨床現場に従事
対象学年	2年	開講学期	後期
単位数	実技 1単位	時間数	30時間
科目の概要	鍼灸実技ⅠⅡで学習した内容を基に、補瀉実技や伝統医学的な診察術を学ぶ		
科目の目標	弁証論治が行えるように反復練習を通して一連の流れを学習する		
学習の到達目標	3年次の臨床実習で、診察を行い病態把握が行えるようにする		
学習方法・学習上の注意	医療過誤、事故に十分注意して行う。		
関連科目	東洋医学概論、経絡経穴概論		
持参物	教科書、ノート、筆記用具		
講義計画			
1	ガイダンス		
2	脈診・腹診・経穴反応		
3	脈診・腹診・経穴反応2		
4	症例1 要穴		
5	症例2 要穴		
6	症例3 要穴		
7	症例4 要穴		
8	脈診・腹診・経穴反応3		
9	艾の知識、灸の応用		
10	症例5 要穴		
11	症例6 要穴		
12	復習		
13	復習		
14	筆記試験、実技復習		
15	実技試験		
成績評価の方法と基準	評価方法：実技試験50%、筆記試験30%、レポート提出10%、出席状況10% 評価基準：学則に従いA(80点以上)・B(70点以上80点未満)・C(60点以上70点未満)・D(60点未満)とする。		
使用テキスト	プリント配布の予定		
参考文献	東洋医学概論(医道の日本社)、経絡経穴概論(医道の日本社)		

科目名	現代鍼灸実技		
担当教員	御書隆之	実務経験の有無及び経歴	鍼灸師として臨床現場に従事
対象学年	3年生	開講学期	通年
単位数	実技 3単位	時間数	90時間
科目の概要	現代医学的な知識および診察法にて、主に整形外科疾患における病態鑑別を行う。また、スムーズな治療が行えるように所作を磨く。		
科目の目標	現代医学的な根拠を持った治療が行えるようになる。		
学習の到達目標	ペーパーペイシエントの自覚症状および検査における所見から病態鑑別を行い、根拠ある治療法を行えるようになる。		
学習方法・学習上の注意	解剖学(特に骨格・神経系)における知識の確認を行い、臨床実習で活かせる技術を身に付けるよう努力する。		
関連科目	解剖学Ⅰ・リハビリテーション医学・東洋医学臨床論		
持参物	実技道具一式(学校配布のもの)・必要に応じて患部を出せるような服装		
講義計画	講義内容		
	1. オリエンテーション		
	2. 肩こり		
	3. 変形性膝関節症		
	4. 腰痛(筋・筋膜性)		
	5. 腰痛(仙腸関節性)		
	6. 腰痛(椎間関節性)		
	7. 腰痛(急性筋性腰痛)		
	8. 腰痛(腰椎椎間板ヘルニア・脊柱管狭窄症)		
	9. 頰椎症		
	10. 肩関節周囲炎		
	11. 胸郭出口症候群		
	12. テニス肘		
	13. 膝疾患(ランナー膝・ジャンパー膝等)		
	14. 野球肩・野球肘		
	15. 中間試験		
	16. アキレス腱炎		
	17. 寝違え		
	18. 頭痛(緊張性頭痛・片頭痛・後頭神経痛)		
	19. 顎関節症		
	20. 肋間神経痛		
	21. 睡眠障害(現代型不眠)		
	22. 高血圧・便秘		
	23. まとめ		
	24. 期末試験		
成績評価の方法と基準	評価方法: 中間試験は刺鍼動作や施術所作において評価する。期末試験は病態鑑別し、病態に応じた治療が行えるか評価する。※両試験ともに60点以上を合格とし、60点未満の場合は再試験対象とする。 総合評価については出席率および授業態度を含めた評価とする。(出席点: 1コマにつき欠席は2点、遅刻/早退は1点減点とする。授業態度: 授業中、課題以外の事を実施した場合は、1コマにつき10点減点とする。) 評価基準: 学則に基づき、A(80点以上)、B(70～79点)、C(60～69点)、D(59点以下)とする。		
使用テキスト	なし		
参考文献	なし		

科目名	伝統鍼灸実技		
担当教員	佐々木勇人	実務経験の有無及び経歴	鍼灸師として臨床現場に従事
対象学年	3年	開講学期	通年
単位数	実技 3単位	時間数	90時間
科目の概要	伝統医学的臨床論で学習する弁証(症状)を中心に、東洋医学的な病態把握および施術方法を学ぶ。		
科目の目標	東洋医学的な診察法(四診)を行い、病態把握および治療ができるようになる。		
学習の到達目標	ペーパーペイシエント(模擬患者)の自覚症状および検査における所見から病態鑑別を行い、根拠ある治療法を行えるようになる。		
学習方法・学習上の注意	基本である八綱弁証を踏まえ、患者の病態把握をする。施術においては道具の扱いに注意し危険行為のないように、衛生的に行うこと。		
関連科目	伝統医学概論Ⅰ・Ⅱ、伝統医学臨床論		
持参物	実技道具一式(学校配布のもの)・必要に応じて患部を出せるような服装		
講義計画	講義内容		
1	オリエンテーション(治療原則・治療計画)		
2～9	頭部顔面部の病証		
10～16	消化器系の病証		
17	婦人科系の病証		
18	泌尿器系の病証		
19～22	頸肩腕痛		
23～24	腰下肢痛		
25	復習		
26	中間試験		
27	評価点検・振り返り		
28～42	不定愁訴		
43	復習		
44	期末試験		
45	評価点検・復習		
成績評価の方法と基準	評価方法:実技試験70%、小テスト10%、学習意欲(授業態度)10%、出席状況10% 評価基準:学則に従いA(80点以上)・B(70点以上80点未満)・C(60点以上70点未満)・D(60点未満)とする。		
使用テキスト	東洋医学臨床論		
参考文献	なし		

※授業の進行状況により、内容を変更する場合があります。

科目名	臨床実習前実技		
担当教員	佐々木 勇人	実務経験の有無及び経歴	鍼灸師として臨床現場に従事
対象学年	2年	開講学期	後期
単位数	実技 1単位	時間数	30時間
科目の概要	四大疾患を中心に病態把握、鑑別診断、基本的な取穴を学習する。		
科目の目標	3学年で行う臨床実習に必要な基礎を習得する。		
学習の到達目標	1年次で学んだ基本技術を円滑に行える。四大疾患を中心に疾患の鑑別と病態把握を学習し、3年次の臨床実習の現場に立つことができるようにする。		
学習方法・学習上の注意	二人一組となって検査法・刺鍼・施灸練習を行う。指示された以外の部位への刺鍼や治療行為は禁止とする。		
関連科目	鍼灸理論 経絡経穴概論 解剖学 臨床医学総論		
持参物	教科書(はりきゅう実技<基礎編>、経絡経穴概論)、鍼灸道具一式		
講義計画			
1	ガイダンス、肩関節痛について		
2	肩関節の鑑別、治療		
3	肩関節痛 復習		
4	頸肩腕痛について		
5	頸肩腕痛の鑑別、治療		
6	頸肩腕痛 復習		
7	腰下肢痛について		
8	腰下肢痛鑑別、治療		
9	カルテ・腰下肢痛復習		
10	膝関節痛について		
11	膝関節痛の鑑別、治療		
12	カルテ・膝関節痛 復習		
13	まとめ		
14	総復習		
15	試験		
成績評価の方法と基準	評価方法: 実技試験60%、筆記試験30%、出席状況10% 評価基準: 学則に従いA(80点以上)・B(70点以上80点未満)・C(60点以上70点未満)・D(60点未満)とする。		
使用テキスト	はりきゅう実技<基礎編>(医道の日本社)		
参考文献	はりきゅう理論(医道の日本社)・経絡経穴概論(医道の日本社)		

科目名	臨床基礎実習Ⅰ		
担当教員	角田 朋之	実務経験の有無及び経歴	鍼灸師として臨床現場に従事
対象学年	1年	開講学期	通年
単位数	実習 1単位	時間数	45 時間
科目の概要	臨床実習を行う前に、治療院の準備や運営、施術の流れ、施術後の道具の処理などを学ぶ。		
科目の目標	治療院の実際の現場で、施術を行う前の準備から、施術後の片付け等、施術者がやる内容を見学し、実践を行う。		
学習の到達目標	治療院で働く心構えや基本姿勢、基本的な動きができるようになる。		
学習方法・学習上の注意	身だしなみには十分注意する。		
関連科目	臨床基礎実習Ⅱ、臨床実習、実技		
持参物			
講義計画	講義内容		
1	オリエンテーション・身だしなみ・清掃業務		
2	受付業務		
3	電話応対		
4～5	ロールプレイ		
6	ゴミの分別、器具の消毒		
7	タオルワーク、枕ワーク		
8	助手としての動き		
9	ベッドメイク		
10	物理療法の機器の使い方		
11～12	中間試験		
13～21	ロールプレイ		
22～23	期末試験		
成績評価の方法と基準	評価方法: 実技試験80%、学習意欲(授業態度)10%、出席状況10% 評価基準: 学則に従いA(80点以上)・B(70点以上80点未満)・C(60点以上70点未満)・D(60点未満)とする。		
使用テキスト	なし		
参考文献	実践ビジネスマナー		

科目名	臨床基礎実習Ⅱ		
担当教員	岩村英明	実務経験の有無及び経歴	鍼灸師として臨床現場に従事
対象学年	2年	開講学期	通年
単位数	実習 1単位	時間数	45時間
科目の概要	治療院の実際の現場で、患者応対や接遇などについて学ぶ。		
科目の目標	基本的な接遇やマナーを身に着け、3年次の臨床実習で患者の状況を把握しながら細かな配慮が行えるようにする。		
学習の到達目標	1. 医療現場で求められる態度や患者に対する配慮を身につける。 2. 適切な態度で患者から最低限必要な情報を質問することができるようになる。 3. 患者に不快感を与えることなく触診をすることができるようになる。 4. 触察により患者の状態を正確に捉えることができるようになる。		
学習方法・学習上の注意	髪や爪など、身だしなみには十分注意を払う。		
関連科目	臨床基礎実習Ⅰ、臨床実習、鍼灸実技、手技実技、体表観察、現代鍼灸検査実技、伝統鍼灸検査実技		
持参物	筆記用具、クリップボード		
講義計画	講義内容		
1～11	鍼灸臨床における医療面接の実際 ・患者を迎え入れる前の準備 ・医療面接の導入 ・医療面接のはじめかたと対話の実際 ・面接に必要な態度と技法 ・ロールプレイ		
12～13	中間実技試験		
14～21	触診 ・触診の基本 ・筋肉、骨の触診 ・皮膚の陥凹探し ・ロールプレイ		
22～23	期末実技試験		
成績評価の方法と基準	実技試験結果(80%)と、日常の学習態度(身だしなみや出欠状況など)(20%)で評価を行う。学則でいうD評価(60点未満)の者には補習の後再度実技試験を行う。		
使用テキスト			
参考文献	鍼灸臨床における医療面接(医道の日本社) マンガで身につく! 治療家のための医療面接(医道の日本社) 治療家の手の作り方ー反応論・触診学試験ー(六然社)		

科目名	臨床実習		
担当教員	大槻健吾・角田朋之	実務経験の有無及び経歴	鍼灸師として臨床現場に従事
対象学年	3年	開講学期	通年
単位数	実習 2単位	時間数	90時間
科目の概要	校内の附属臨床施設を使用して行う。実際の患者様の施術を通して今まで学習してきた全ての知識や技術の総まとめを行う。		
科目の目標	基本的臨床能力としての、知識・技能・態度・習慣を身につける。		
学習の到達目標	1. 患者に対し、受付や誘導など適切な対応が出来るようになる。 2. 患者に対し、適切に医療面接を行うことが出来るようになる。 3. 患者に対し、必要と思われる検査を適切に実施することが出来るようになる。 4. 医療面接や検査で得た情報から、病態把握や治療方針をたてることが出来るようになる。		
学習方法・学習上の注意	1. 臨床実習は臨床の現場であるため、毎回の実習での態度は学生としての評価のみではなく、鍼灸業界全体に関わる重要なものであること絶対に忘れないこと。初めて治療院に訪れる患者も多く、この実習での施術者や学生の態度が鍼灸そのもののイメージになることを常に意識すること。 2. 実習中、指導教員の指示に従うことは当然のことだが、分からないことを分からないままにせず、必ず指示を聞いて行動すること。 3. 附属治療院で見聞きした患者の個人情報口外しないこと。また、ソーシャルネットワーク上(ブログ・ツイッター・LINE等)にも絶対に出さないこと。		
関連科目	解剖学、生理学、臨床医学総論、臨床医学各論、鍼灸実技、応用実技		
持参物	筆記用具、クリップボード、臨床実習ノート		
講義計画	講義内容		
1～2	オリエンテーション		
3～42	実習		
44～45	期末評価		
成績評価の方法と基準	評価方法: 課題提出50%、学習意欲・授業態度(出席状況を含む)20%、 期末評価・外部評価30% 評価基準: 学則に従いA(80点以上)・B(70点以上80点未満)・ C(60点以上70点未満)・D(60点未満)とする。		
使用テキスト			
参考文献			